

平成28・29・30年度研究のあゆみ

はさま第20集

一貫性ある個に応じた指導のために

— 自立活動の個別の指導計画作成と事例検討会をとおして —



宮城県立迫支援学校

目 次

要約

I	テーマ設定の理由	1
1.	特別支援学校の目的から	1
2.	本校における課題から	1
II	研究目標	2
III	自立活動について	2
1.	本研究における「障害による学習上又は生活上の困難」	2
2.	授業と自立活動の関係（L字型構造）	3
3.	自立活動の一貫した指導の必要性について	3
4.	本研究における一貫性とは	4
5.	自立活動と合理的配慮の違い	5
IV	研究の内容と方法	6
1.	専門性と一貫性ある指導を担保するために	7
2.	適切な個別の指導計画を作成するために	7
3.	教師の専門性を高め、自立活動の理念を共通理解するために	7
V	研究の概要	7
1.	専門性と一貫性ある指導を担保するために	7
2.	適切な個別の指導計画を作成するために	10
3.	教師の専門性を高め、自立活動の理念を共通理解するために	13
VI	結果と考察	17
1.	学校訪問指導（ミニ公開研究会）における指導主事の指導から	17
2.	学校訪問指導（ミニ公開研究会）で実施したアンケートの結果から	17
3.	本校教師に実施したアンケートの結果から	19
VII	研究のまとめ	23
資料1	個別の指導計画作成マニュアル	資料1-1

一貫性ある個に応じた指導のために

— 自立活動の個別の指導計画作成と事例検討会をとおして —

【要約】

研究目標

自立活動の理念を教師間で共通理解し、複数教師による個々の児童生徒の実態把握から教師間で指導の方針を共有することで一貫性のある個に応じた指導ができるようにする。

自立活動の考え方について

本研究では、自立活動の目標にある「障害による学習上又は生活上の困難」を「学習上、生活上の困難」とそれらの原因となっている「障害による困難」の因果関係で捉えた。特に、「障害による困難」への配慮は、学校生活や、家庭、地域生活など、どこでも必要であり、また、幼児期から卒業後に至るまでいつでも必要である。これを自立活動の指導の一貫性が必要とされる根拠とした。

そこで個別の指導計画の新様式に、年間指導目標に加え、いつでもどこでも障害による困難に配慮するための配慮事項の欄を新設した。

研究の柱

1. 専門性と一貫性のある指導を担保するために

2. 適切な個別の指導計画を作成するために

3. 教師の専門性を高め、自立活動の理念を共通理解するために

1. 専門性と一貫性のある指導を担保するために

●TTでの合議による課題設定シートの作成

・対象は小学部1、4年生、中学部1年生、高等部1年生の児童生徒

形式2-5-1 (例) 自立活動の課題設定シート	
児童生徒名	○○○○
作成月日	平成○○年 ○月 ○日
担当する障害種	なし・ 肢体不自由・ 弱視・ 視覚・ 聴覚
学年	1年生(学年) ○○○○, ○○○○, ○○○○
学年	2年生(学年) ○○○○, ○○○○, ○○○○
学年	3年生(学年) ○○○○, ○○○○, ○○○○
日	月 日 月 日

1. 児童生徒の気になる行動(課題と思われるエピソード) → 目標設定の参考にする
① 学校、下校時に去勢から入り込むことに抵抗がある。 ② 集団の授業や場に参加したり、長時間居ることが難しい。 ③ 集団の目標がくわくわくある。非常に競争的である。 ④ 行動範囲が広がらないうえ、発音に支障がある。 ⑤ 学年の初め、新学期に入学準備が十分に行き届いていない。 ⑥ 理由によって気分が落ち込み、一層怒り出すと泣くことが多くなる。 ⑦ 衝動的に行動するときは顔が赤くなる。 ⑧ 言葉の理解が他人と比べて遅くなる。かえって周囲が怒られることがある。 ⑨ 言葉遊びで他人とのやりとりをするのが好きである。 ⑩ 友達とバトン「ママに言いたい」等のやりとりはできるが、それ以外についてはやりとりは困難で会話が中心である。 ⑪ 言葉や気持ちを言葉で伝えることが増えてきているが、1分にはできない。 ⑫ 物中への名前を間違えて覚えていたため、相手に伝わらないことがある。 ⑬ 友達から褒められると嬉しく感じるが、褒められる人への警戒心が強い。 ⑭ 褒められたことがあった場面を覚えていて、似たような状況に同じような警戒心がなくなる。 ⑮ 褒めや励ましを受ける。 (1年生追加)
2. 気になる行動の原因を推測 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする
① 不安定な行動が多く、思いがけず行動することが多いからではないか？ ② ①の不安定な行動を止められると、怒りやすい。感情の起伏が激しく、激しく変わるのか？ ③ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ④ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑤ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑥ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑦ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑧ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑨ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑩ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑪ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑫ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑬ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑭ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？ ⑮ ①の不安定な行動が、人や物に当たったり、物を壊したり、他人に迷惑をかけるような行動になるのか？
3. 推測される障害による困難 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする
① 集団性が低く、活動への参加が難しい。 ② 怒りやすい。 ③ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ④ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑤ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑥ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑦ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑧ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑨ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑩ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑪ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑫ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑬ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑭ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。 ⑮ ①の不安定な行動による警戒心が強く、警戒して現れる。
4. 指導上参考になる事項(興味・関心、人との関わり等) → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする
① 気に入ったもの(おもちゃやカードなど)を持つことで安心して落ち着くことができる。 ② 自転車や歩行者などの外の遊びや気分転換できる。 ③ 好きな行動を言葉にするなど、教師が取り組まない状態に取り組むことがある。 ④ 不安定になったときは、好きな環境を提供すれば落ち着きやすい。

児童生徒の気になる行動(課題となるエピソード)

・担当の教師が課題と思われるエピソードをあらかじめ書き出して置く。

気になる行動の原因を推測

・エピソードの背景にある原因を、TTを中心とするメンバーで推測する。

推測される障害による困難

・エピソードの集約とその原因の絞り込みをして、障害による困難を推測する。

指導上参考となる事項

・指導の切り口として、参考になる事項(興味・関心、人との関わりなど)について書き出す。

2. 適切な個別の指導計画を作成するために

● 自立活動の個別の指導計画の新様式

【形式】		
【例】個別指導計画（指導計画）		
【学級】		
【学年】		
【指導計画の作成者】		
【指導計画の作成日】		
【指導計画の作成場所】		
【指導計画の作成目的】		
【指導計画の作成内容】		
【指導計画の作成方法】		
【指導計画の作成結果】		
【指導計画の作成評価】		
【指導計画の作成改善】		

配慮事項の欄を追加

- ・指導目標に関する場面だけでなく、学校生活全体にわたって障害による困難に配慮するために。

目標の設定理由と指導仮説の欄を追加

- ・課題から目標に変換する過程が分かる。

区分と項目の番号・指導方法・指導の形態と期間

- ・指導目標を達成するための指導方法の具体化。

● 自立活動の個別の指導計画を作成するためのシステムの構築

- ・個別の指導計画作成マニュアルの改訂

3. 教師の専門性を高め、自立活動の理念を共通理解するために

● 自立活動についての研修会の実施

- 平成28年度** 教務主任から、自立活動の内容項目とその組み合わせ方について
- 平成29年度** 研究主任から、個別の指導計画作成マニュアルについて
- 平成30年度** 研究主任から、自立活動の個別の指導計画の新様式について

● 教師の少人数グループによる事例検討会の実施

- ・対象は小学部2, 3, 5, 6年 中学部2, 3年 高等部2, 3年の教師。

- 平成28年度** 学部の枠を外した少人数グループを編成し、教師1名につき1名の対象児童生徒を決め、実態把握から指導上の課題、解決策などを検討した。
- 平成29年度** 学部または、学級のTTで少人数グループを編成し、各グループで対象児童生徒を決め、PDCAサイクルでの事例検討会を実施した。
- 平成30年度** 学部または、学級のTTで少人数グループを編成し、各グループで対象児童生徒を決め、授業研究を実施した。

研究の成果

- ・自立活動の指導は児童生徒の実態から考えて目標等を設定することが共通理解された。
- ・課題となる行動の原因を考えながら、障害による困難を推測していこうとすることが共通理解された。
- ・複数教師による実態把握や事例検討会から意見の多様性や共通理解が図れたこと。

今後の課題

- ・自立活動の考え方や個別の指導計画の作成など、今後も教師間で共通理解を図っていく必要性。
- ・個別の指導計画を回覧するシステムにおける効率化の必要性。

【共同研究主題】 一貫性ある個に応じた指導のために

－ 自立活動の個別の指導計画作成と事例検討会をとおして－

1. テーマ設定の理由

1. 特別支援学校の目的から

小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けること（学校教育法第72条）

知的障害者を教育する特別支援学校においては各教科の内容と自立活動において通常の学校にはない特徴がある。

準ずる教育

各教科、領域等を指す。特に知的障害者を教育する特別支援学校の各教科は通常の教育とは異なる独自の内容を定めている。

障害による学習上又は生活上の困難を克服

主に自立活動の指導を指す。自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達¹の基盤を培う。」であり、特別支援学校の目的の後段部分はこのことを示している。

本校では平成27年度まで、知的障害教育の各教科を取り上げ、学習指導要領解説に基づく指導内容表を作成し、個別の指導計画や学校評価においての活用、指導内容表を継続して活用できるようにするための管理システムを明らかにしてきた。

平成28年度からはもう一つの特徴である自立活動を取り上げてきた。

自立活動は障害のある幼児児童生徒のために設けられた特別支援学校独自の領域である。様々な場面で生じる障害による困難を克服、あるいは軽減し、よりスムーズに学習や生活に取り組むことで主体的に生きていこうとする態度を養うものである。

自立活動は6区分27項目の内容から成り立っているが、各教科の内容とは異なり、それら全てを指導する必要はない。あくまで幼児児童生徒の実態から必要に応じて選択、組み合わせながら指導するものである。しかしながら特に必要を感じないから指導しなくてよいというものではない。特別支援学校に在籍している幼児児童生徒には障害による学習や生活上の困難が必然的に存在している。それを的確な実態把握で明らかにして指導していくことは特別支援教育の存在意義そのものであり、教師の重要な専門性であるとも言える。

2. 本校における課題から

本校においても児童生徒の理解に努め、その課題に応じて目標や内容を設定し、指導方法を工夫する実践が数多くなされてきた。経験豊富な教師が多く、その示唆に富む実践は、若い教師や経験の浅い教師にとって興味を喚起する重要な研修ともなっている。

しかしこれらは教師個人の範囲であり、組織として個々の児童生徒全員に専門的な指導をしているとは言い難い。本校では業務を効率的に進めるために児童生徒個々に担当する教師を決めることが多い。また個別の指導計画の作成等においても担当の教師が原案を作成し、それを学級や学年に所属している教師間で読み合わせて作成している。多くの場合、これらの担当制は業務の効率化に大きく寄与している。しかし自立活動の場合、教科ごとの指導内容表などの明確な統一性がないため、その理念の理解と児童生徒の実態の把握や疾病の特性等に応じた専門性などが要求される。本校の職員もそれぞれのもてる力を発揮し、多くの時間を割きながら自立活動の指導を行っている。しかし

経験や専門性、主義主張も教師により様々であるため、専門性や自立活動の大きな特徴でもある指導の一貫性などが組織として担保されていない。教師にとっては効率性の高い利点があっても、児童生徒の立場からは担当される教師によって実態の把握や障害による困難の捉えが変わってしまうことがあるため混乱をきたす場合があり、保護者の不信を招く原因にもなりかねない。本来の自立活動ともかけ離れた指導となってしまう可能性もある。

これらのことを避けるために、本研究では業務の効率性を考慮しつつ、自立活動の個別の指導計画作成において特に重要な部分を、組織化された手続きの基で作成できないかと考えた。つまり、専門性や一貫性の担保を担当者という個人に置くのではなく、複数の教師が合議しながら作成することで組織として担保しようとするものである。自立活動の個別の指導計画が個々の児童生徒の実態に応じて適切に作成され、的確な指導の方針が定められれば個に応じた指導の一貫性が保てるのではないかと考えた。

II. 研究目標

自立活動の理念を教師間で共通理解し、複数教師による個々の児童生徒の実態把握から教師間で指導の方針等を共有することで一貫性ある個に応じた指導ができるようにする。

III. 自立活動について

1. 本研究における「障害による学習上又は生活上の困難」

- 本研究では「学習上、生活上の困難」の原因となっているのが「障害による困難」と捉える。
- 表面上の行動に表れる学習上や生活上の困難だけに着目するのではなく、その背景にある障害による困難を推測していくことが大切であると考えた。

【指導例】 1 から 30 までの順序数を正しく書き、特定の数字を探す。

①指導内容の設定

数学科の数と計算の観点から

- ・「数を数える」(小学部 2 段階相当)
- ・「順序数」(小学部 3 段階相当)

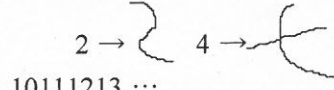
②実践スタート

- ・なぞり書きと視写を指導した
- ・声に出しながら数字を書くように指導した
- ・何回か繰り返しても覚えられない

学習上の困難

③何でできないのだろう (原因の推測)

- ・数字を書かせると線の向きや交差など整わない
- ・隣合う数字が混乱して位取りが分からなくなる
- ・集中の差が激しい
- ・そういえば他の場面でも…



10111213 …

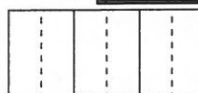
障害による困難

→視覚認知と注意の継続の困難さ

④こうすればできる

障害による困難に対応した指導

- ・大きく升を作る
- ・1の位と10の位に仕切り線を付ける
- ・構造化した環境 (集中しやすい環境作り)



自立活動の指導

→児童生徒にとって分かる、取り組める→主体的な活動へ発展

2. 授業と自立活動の関係（L字型構造）

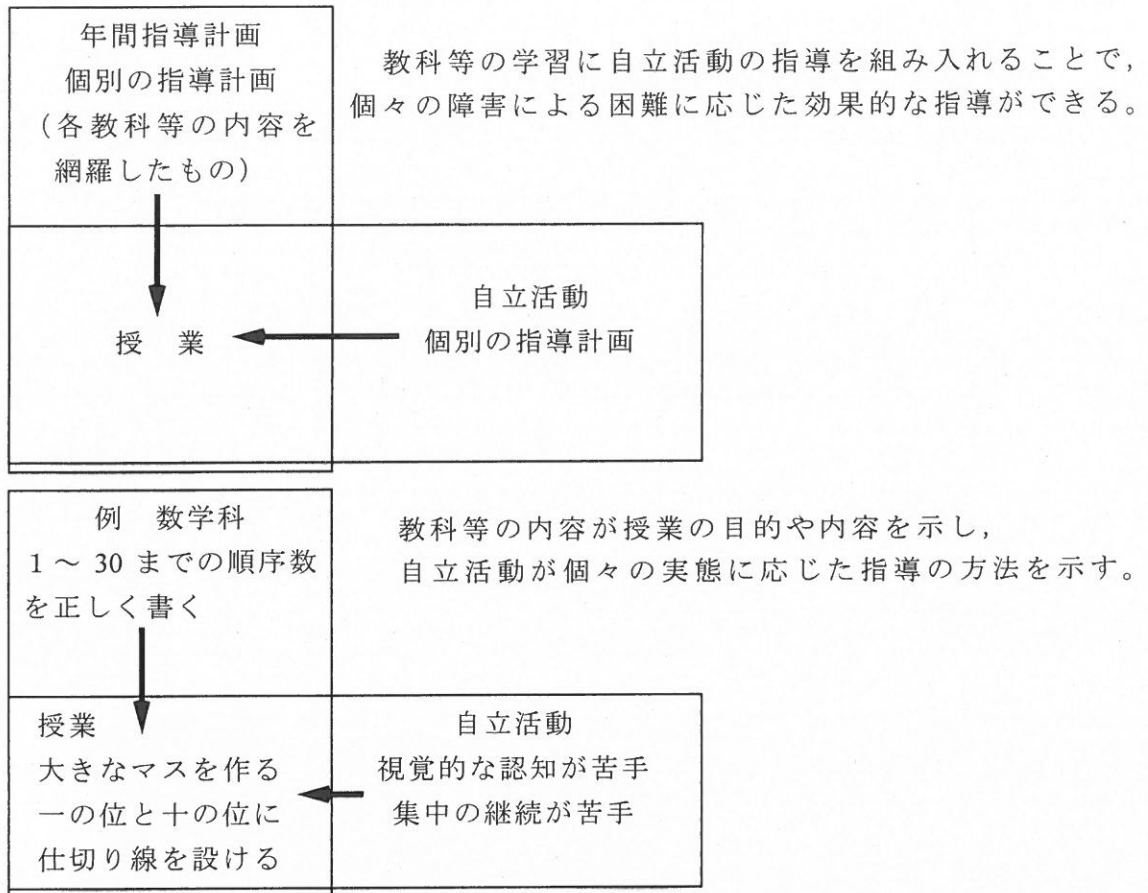


図1 L字型構造

3. 自立活動の一貫した指導の必要性について

1) どこでも自立活動が必要

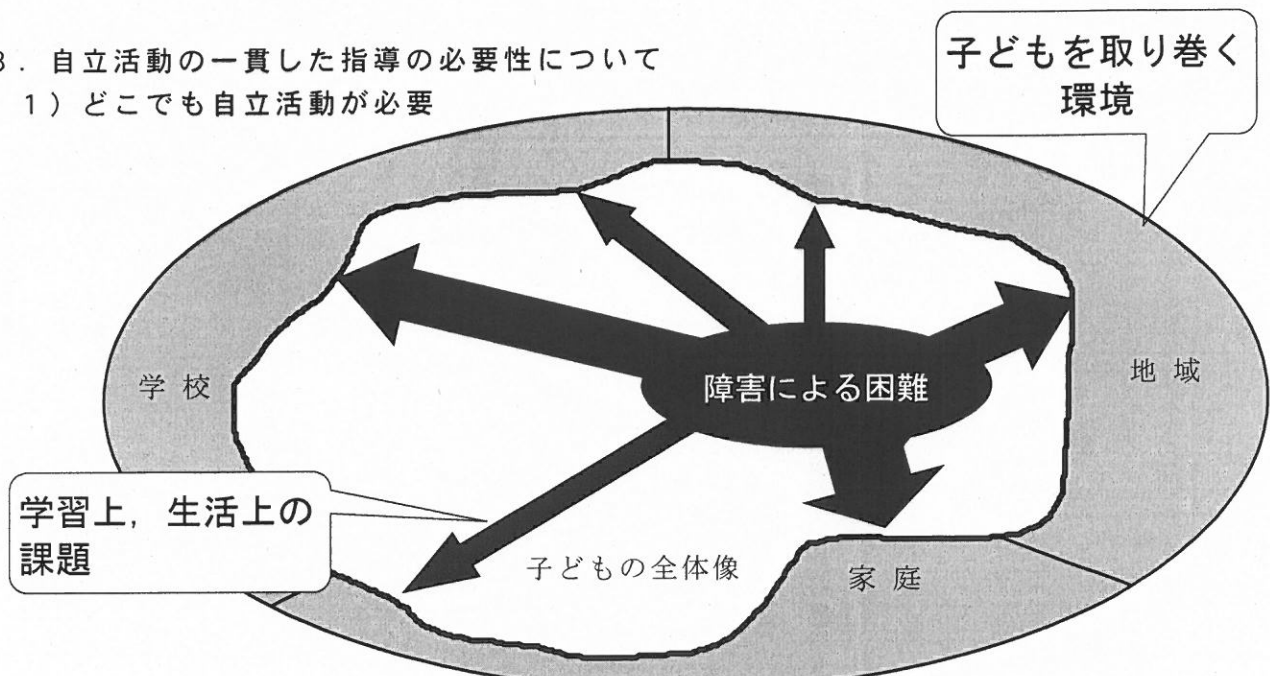


図2 障害による困難の影響

- 表面に表れたいくつかの学習上、生活上の課題から、その背景を推測することで、障害による困難が予想される。
- 障害による困難は学習のみならず、生活全般に影響を及ぼす。
※例えば、視覚認知の困難な生徒は勉強にのみ困難があるわけではなく、生活の中でも標識や値札などの読み取りに困難が見られることがある。

○障害による困難は生活全般に影響を及ぼす。
→ どこでも自立活動の指導が必要と考える。

2) いつでも自立活動が必要



図3 障害による困難の継続

○「知的障害」とは、知的機能の障害が発達期までにあらわれ、継続的に日常生活又は社会生活に支障がある状態を指す。→ 障害による困難も継続している

※例えば、大人になったからといって視覚認知の困難さが解決されるものではない。

○障害による困難は生涯にわたり、継続している。
→ いつでも自立活動の指導が必要と考える。

○いつでも自立活動の指導が必要
○どこでも自立活動の指導が必要
→ **自立活動は一貫した指導が大切である。**

4. 本研究における一貫性とは

自立活動の指導では一貫性が必要と考えるが、実際には環境が変わることで指導方針や指導方法などに変更が必要とされる場合も多い。前年度と同じ方針や方法で指導していても環境の変化により、急にできなくなることもある。

そこで本研究では児童生徒の実態把握から設定される障害による困難やそれらに基づく配慮事項の設定までを一貫性と捉えたい。児童生徒の実態把握には個々の発達の状態に加え、教師個々の価値観や経験の差が加わることも多い。同じ児童生徒であっても、これらの実態把握が教師個々に異なっていると配慮すべき点で差が生じ、指導に支障をきたす。特にチームティーチングを基本とする特別支援学校においてTT同士で配慮に差が生じてしまうと、児童生徒に混乱が生じたり、保護者が不信感を募らせたりする結果になりかねない。チームの教師で話し合いながら個々の児童生徒の実態把握を実施していくことで、配慮点や指導方針等も共有されやすくなると考える。

話し合いによる実態把握は原則3年ごとに実施するのが適切ではないかと考えた。児童生徒の学習上、生活上の具体的な行動は日々変化を遂げ、実態の変化がめまぐるしい場合もある。しかし障害による困難は一朝一夕で変わるものではなく、長期的な視点で見ていく必要がある。また3年は小学部においては折り返しの年であり、中学部、高等部の修業年でもある。指導上の区切りがよいというメリットがある。ただし医療的な措置等による劇的な変化もあるため、3年に限らず、必要に応じて変更を加えることができるものとした。

これらを踏まえ本研究では一貫性を次のように捉えた。

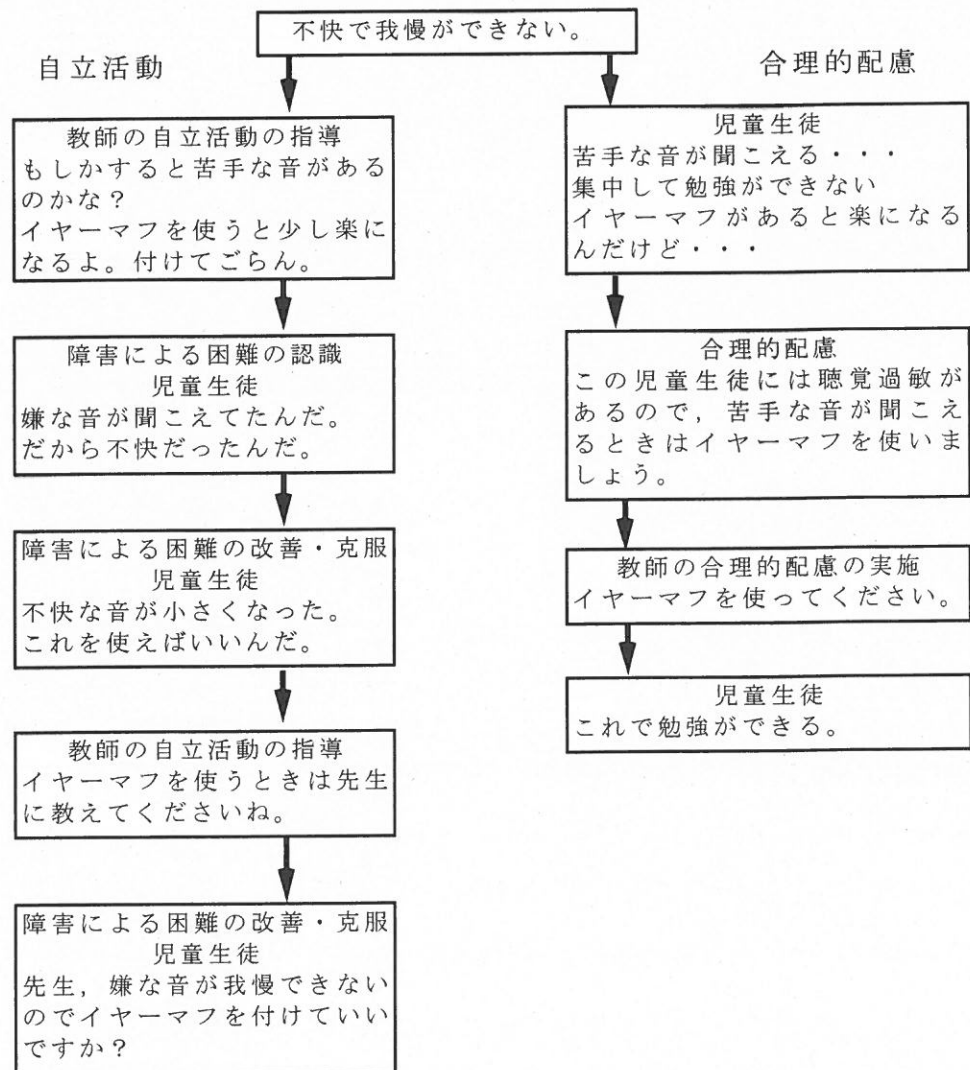
指導方針や指導方法等で教師間に大きな差が生じないように、児童生徒個々の課題設定や配慮点をチームティーチングの教師で検討し、その結果を共有する。3年をめぐりに引き継いでいき、障害による困難を踏まえて継続的に指導できるようにしていきたい。

5. 自立活動と合理的配慮の違い

自立活動と合理的配慮は、指導の過程や配慮する場面において共通する部分が多く、混同して考える場合が少なくない。特に本研究においては後述する自立活動の個別の指導計画の新様式の中で年間指導目標のみならず配慮事項まで記載することもあり、自立活動と合理的配慮の違いを明確にすることは重要なことと言える。

自立活動の目標は児童生徒自身が障害による困難を認識し、それを改善・克服しようとするために必要な知識、技能、態度及び習慣を養うことである。合理的配慮とは自立活動や準じた教育も含めた指導内容を習得するため、また他の児童生徒と同じように学習できるようになるための配慮を、本人や保護者の要請と学校との合意の基で実施される配慮である。

【例】聴覚過敏があつてイヤーマフを用いる場合



なお、後述する個別の指導計画の新様式にも配慮事項がある。これは自立活動の年間指導目標に基づいた指導をする場面以外で、障害による困難にどのように対処するか、また児童生徒本人や保護者に障害による困難の認識がないところでどのように指導していくのかを、学校生活全体にわたって包括的に配慮していくためのものである。

IV. 研究の内容と方法

一貫性ある個に応じた指導に迫るために次の内容と方法で取り組むこととした。

1. 専門性と一貫性ある指導を担保するために

1) 自立活動に関する組織的な実態把握

(1) 課題設定シートを用い、TT間で討議をしながら組織的な実態把握を行う。

2. 適切な個別の指導計画を作成するために

1) 自立活動の個別の指導計画の新様式の設定

(1) 課題設定シートを基に作成する新様式を提案し、試行する。

(2) 新様式では「いつでもどこでも自立活動」を具現できるよう欄を設ける。

(3) 自立活動の個別の指導計画の作成に当たっては、学習上、生活上の課題を取り上げ、それらを指導目標へ転換させるため、指導目標を設定するための経緯を明らかにする欄を設ける。

2) 自立活動の個別の指導計画を作成するためのシステムの構築

(1) 課題設定シートを作成するための時間を確保し、集団討議に必要な人数の調整や係分担などを行い、計画的に実施できるようにする。

(2) 小学部1, 4年生, 中学部1年生, 高等部1年生で課題設定シートを作成し, 3年間で全児童生徒分の課題設定シートが作成され, これらが3年で更新できるようなシステムを構築する。

(3) 共同研究が終了した後, 担当分掌にシステムがスムーズに移行できるよう, 個別の指導計画作成マニュアルの改訂を図る。

3. 教師の専門性を高め、自立活動の理念を共通理解するために

1) 自立活動についての研修会の実施

(1) 自立活動や個別の指導計画の作成に当たっての研修会を実施し, 教師間での共通理解を図る。

(2) 障害による困難を推測するに当たって, 教師が参考にするための資料を収集し配付する。

2) 教師の少人数グループによる事例検討会の実施

(1) 年次ごとにグループ編成や事例検討会の方法を変えて, 複数の教師で対象児童生徒について話し合いをもつ。

表1 事例検討会の内容

年次	少人数グループ	対象児童生徒	話し合いの内容
1年次	学部枠を外した編成	各教師1名	指導上, 困難に感じていること
2年次	学級または学年ごと	学級ごと1名	自立活動の指導について
3年次	学級または学年ごと	学級ごと1名	授業研究(2回)

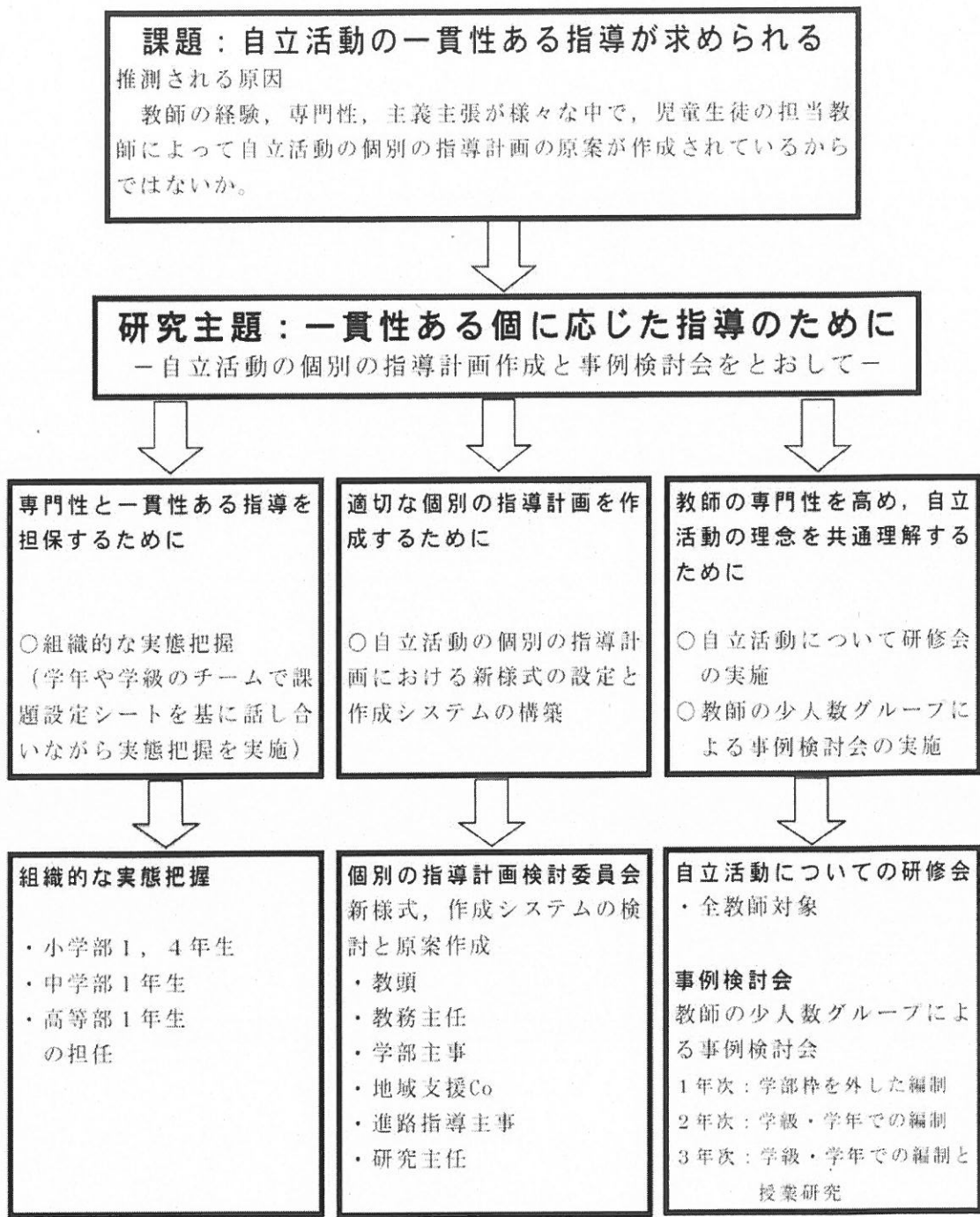


図4 研究構想図

V. 研究の概要

1. 専門性と一貫性ある指導を担保するために

1) 自立活動に関する組織的な実態把握

本校には従前からごく簡単な実態把握ができる様式があったが，教師自身の観察を基にして考察し，指導に生かすものとは異なっていた。そこで観察によって得られた様々な情報を集め，複数教師でそれらを集約し，因果関係が考察できる課題設定シートを用い，児童生徒の具体的な実態から障害による学習上及び生活上の困難を推測していくこととした。

課題設定シートは障害による困難を推測していくため，長期的な視点として原則3年間使用していくこととした。ただし，3年という期間は指導上の区切りから便宜的

に捉えた期間であるため、実態に大きな変容が生じた際には3年を待たずに変更を加えることができるように整備することとした。

2) 本研究における課題設定シートの特徴

(1) 複数教師による話し合いの効率性と正確性のバランスをとるために

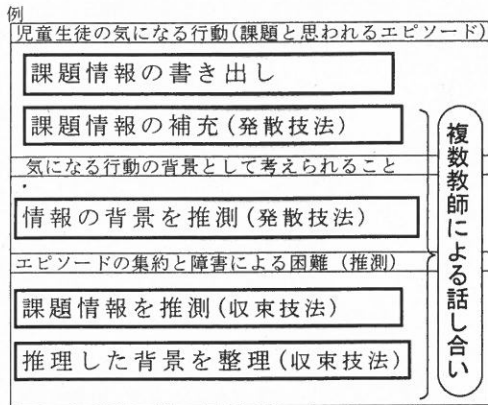


図5 課題設定シートの考え

いつかなかったり、分からなかったりすることでも複数の教師が集まることで多角的に検討でき、精度を高めることができる。

また情報収集の際に課題という観点を設け、内容や量を限定することで、KJ法のような構造図や設定理由の作成を省き、できるだけ効率的に作成できるようにした。

以上のように話し合いに深みをもたせること、なおかつ効率的に話し合いが進められることを念頭におき、課題設定シートを考えた。

なお、1年次研究の結果から効率性を意識しすぎて形式的、表面的な話し合いで終わることを危惧する意見があった。担当者がすべて下書きをしておき、その共通理解だけで終わらないようにすることが大切である。きちんとした意見の交換は、それだけでメンバー全員の研修になること、何よりも複数教師で検討し合うねらいや長所を一人一人の教師が理解し、責任をもって参加することが重要と考える。

ワークショップに代表される集団討議は情報の収集と情報の整理に大きく分けられる。情報の収集には個人の心象を数多く出し合う技法がとられることが多く、発散技法と呼ばれている。こうして収集された膨大な情報は様々な技法で整理される。情報を内容や因果関係、時系列等に基づき分類し、関係性を示して整理する方法を収束技法と言い、特に内容の類似性から整理する方法を帰納法と呼ばれている。

課題設定シートでも発散技法と収束技法を用いるようにしている(図5)。一人の考えだけでは思

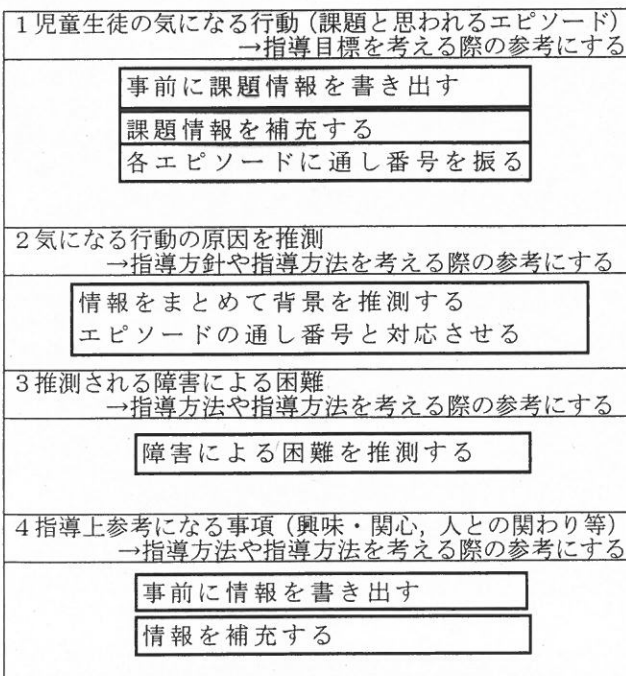


図6 課題設定シートの様式

(2) 課題設定シートの様式

1年次研究で用いた実態把握シートは継続した使用で支持は得られたものの、自由記述の意見からは改善が必要とされた。その多くは児童生徒の課題点のみならず、指導の切り口として参考にできる内容まで含めて話し合えることを望んでいた。そこで障害による学習上又は生活上の困難を推測するねらいを堅持しつつも、興味・関心、人との関わりなどを情報として記入できるよう「指導上参考になる事項」を新設し、担任間で補足や共通理解ができるようにした(図6)。

また、個別の指導計画を作成する際に、課題設定シートとの関連性を明確にするために、あらかじめ課題設定シートの中に、個別の指導計画のどこで活用されるか簡単

に記載しておくことにした。

3年次研究では作成された課題設定シートを3年間使用することから、その間の修正などが分かるようにするためのシステム化と、重複する障害の有無を明確にする欄を設けた。

3) 課題設定シートの作成手続き

小学部1, 4年生, 中学部1年生, 高等部1年生の児童生徒個々について学年や学級の担任で合議しながら, 学習上又は生活上の困難をまとめ, 障害による困難を推測していく。併せて興味・関心なども探りながら, 自立活動の目標の設定や指導方針を考えるための資料を作成する。なお作成日は1年次, 2年次は年間を通して5回程度設定し, 3年次は前年度のうちに教務部と相談して6月に5回分, 年間行事予定に入れて実施した。

(1) 課題設定シート作成の手順

様式2-5-1 (例) 自立活動の課題設定シート	
児童生徒名	〇〇〇〇
作成月日	平成〇〇年 〇月 〇日
重複する障害種	なし・肢体不自由・病弱・視覚・聴覚
作成年次(学年)	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇
作成年次(学年)	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇
作成年次(学年)	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇
修正	〇月 〇日

1. 児童生徒の気になる行動(課題と思われるエピソード)	目標設定の参考にする
①登校, 下校時に玄関から出入りにすることに抵抗がある。	
②集団の授業や場に参加したり, 長時間留まるのが難しい。	
③興味の対象がくるくる変わり, 非常に衝動的である。	
④行動範囲が広がり, 高等部棟に行きたがる。	
⑤大気のない時間帯に, 小学部男子トイレに入りたがる。(〇年削除)	
⑥日によって気分がむらがあり, 一端怒り出すと話を聞くことが難しい。	
⑦衝動的に行動するときは制止が効きにくい。	
⑧禁止等の言葉は怒りのきっかけになり, かえって意図が伝わらないことがある。	
⑨言葉遊びで他人とのやりとりをするのが好きである。	
⑩決まったパターン「ママに言っという」等でのやりとりはできるが, それ以外についてのやりとりは単語での会話が中心である。	
⑪要求や気持ちを言葉で伝えることが増えてきているが, 十分にはできない。	
⑫物や人の名前を間違えて覚えていて, 相手に伝わらないことがある。	
⑬でんかんの薬の副作用で午前中に眠気が強く出る。	
⑭自分を受け入れてくれる人とは親しく接するが慣れない人への警戒心が高い。	
⑮嫌なことがあった場面を覚えていて, 似たような状況に対して警戒心が高くなる。	
⑯窓やドアを開けたがる。(〇年追加)	
2. 気になる行動の原因を推測 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする	
②③④⑦衝動性が高く, 思いついたら自制することが難しいからでは?	
①②③④⑦⑧⑨行動を止められたりすると, 怒りやすい。感情の起伏が状況次第で激しく変わるのでは?	
①②③④⑦⑧⑨慣れない人や以前のやな経験があった状況(場所や時間)になると警戒心が高くなるのでは?	
①③④⑦⑧⑨興味があるものや, ドアや窓を開けたがるのはこだわりがあるからでは?(〇年削除, 〇年追加)	
⑫聞き覚えた言葉を正確に話すことが難しいのでは?	
⑬でんかんの薬の副作用で午前中に眠気が強く出る。	
3. 推測される障害による困難 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする	
○衝動性が高く, 活動への継続した参加が難しい。	
○怒りやすい。	
○過去のいやな経験による警戒心が高く, 持続して現れる。	
4. 指導上参考になる事項(興味・関心, 人のかかわり等) → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする	
○気に入ったもの(毛布やミニカーなど)を持つことで安心して落ち着くことができる。	
○自転車や袋飛ばしなどの外の遊びで気分転換できる。	
○好きな行動をご褒美にすることで, 教師が取り組ませたい課題に取り組むことがある。	
○不安定になったときは, 静かな環境を提供すれば落ち着きやすい。	

図7 課題設定シート例

A 話し合いの前にやっておくこと

㊦ 気になる行動等の書き出し

対象児童生徒の担当教師は児童生徒の気になる行動(課題と思われるエピソード)を課題設定シートに書き出す。10個程度を目安に箇条書きで書き出す。それぞれの行動に通し番号を振っておく。

㊧ 司会と記録の確認

司会はタイムキーパーも兼ねる。記録したものは個別の指導計画の一部となる。司会も記録も話し合いに積極的に参加するようにする。

B 話し合い当日(一人分の手順)

㊦ 担任教師が集まって協議する。(場所は各教室)。

㊧ 担当教師は課題設定シートを配付し, メンバーで読み込む。

㊨ 司会は気になる行動について付け加えがあるかどうかメンバーから確認する。→㊦, ㊨で合わせて5分程度

㊩ メンバーそれぞれで気になる行動の原因を考える。その際, どの行動の原因となっているのか, 対応した通し番号を振っておく。司会はそれらを集約する。→10分程度

㊦ メンバーの意見を基に気になる行動の原因を集約し, 推測される障害による困難をまとめる。→5分程度

㊨ 指導の切り口として参考にする興味・関心など付け加えがあるかどうか確認する。→5分程度

C 話し合い後

㊦ 記録者は課題設定シートをデータ化し, 印刷物を担当者に, データをサーバーに保管する。

4) 課題設定シートの名称について

1年次研究では実態把握シートという名称で使用したが、教師のアンケートでは課題から実態に迫ることに対して抵抗を感じる意見がいくつかあった。課題から実態を把握することで、実態の捉えに偏りを生じさせたり、障害を殊更強調したりするのではないかという危惧があったためと考えられる。実際には「障害による学習上又は生活上の困難」を具体的に把握するためのものなので、このシートのみで全ての実態が把握できるわけではない。またこのシートを基に自立活動の個別の指導計画では指導目標や指導の方針を考えていくことになるが具体的な指導方法や指導場面などは今までの指導の記録なども合わせて考えていく必要がある。このように限定された目的での使用を踏まえ、名称を課題設定シートに変更した。

5) 話し合いのためのグループ編制

一般にグループワークの最適人数は4～6人程度と言われている。本校の場合、学級編制の都合などにより、最適人数を満たさずに編制せざるを得ない場合が多い。話し合いでは児童生徒の担当者、司会者、記録者の係分担がある。そこで最少でも3人以上でグループ編制ができるように、担任外の教師をグループに入れるなどして調整を図った。

2. 適切な個別の指導計画を作成するために

1) 自立活動の個別の指導計画の新様式の設定

(1) 個別の指導計画検討委員会の設置

教頭、主幹教諭、各学部主事、進路指導主事、地域支援コーディネーター、研究主任の8人で個別の指導計画検討委員会を組織し、研究部で作成した原案を基に協議できるようにした。「研究部→個別の指導計画検討委員会→(アンケート)→研究全体会」の流れで、それぞれ説明や協議を経て改善したものを新様式とし、3年次で全校児童生徒を対象に試行することとした。

(2) 自立活動の個別の指導計画の様式の検討

①課題設定シートの取り扱い

従来、本校では児童生徒調査票、プロフィール票に標準検査の結果等を含めた個々の実態をまとめており、個別の教育支援計画や個別の指導計画をはじめとして日々の実践の中で活用してきた。本研究で用いている課題設定シートは、これらよりもさらに具体的な行動が記載されるようになり、教師の話し合いの結果なども加えられている。自立活動の指導を支える根拠となると同時に個々の児童生徒の行動の

特徴を詳細にとらえることができる資料ともなる。

そこで自立活動の個別の指導計画の一部として課題設定シートを加え、新たに様式の中に取り入れることとした(表2)。

表2 本校の個別の指導計画

様式番号	個別の教育支援計画と共有する様式(様式1)
1-1	実態の概要
様式番号	個別の指導計画に関する様式(様式2)
2-1	集団版(生活単元学習, 遊びの指導, 作業学習, 保健・体育, 音楽, 特別活動, 総合的な学習の時間)
2-2	個別指導版(日常生活の指導)
2-3	個別指導版(国語)
2-4	個別指導版(算数・数学)
2-5-1	課題設定シート(本研究で新しく加えたもの)
2-5-2	個別指導版(自立活動 本研究で新様式にしたもの)
様式番頭	個別の指導計画の評価に関する様式(様式3)
3-1	集団版
3-2	個別指導版(日常生活の指導)
3-3	個別指導版(国語)
3-4	個別指導版(算数・数学)
3-5	個別指導版(自立活動 従来通り)

○学部○年○組 氏名 ○○○○ 担任 ○○○○, ○○○○, ○○○○		
重複する障害種 (なし) 肢体不自由・病弱・視覚・聴覚		
配慮事項 → 課題設定シートの障害による困難と指導上参考になる事項を踏まえて記載する ○活動予告をして見通しをもたせる。 ○毛布やスケッチブックなど本人の気持ちが落ち着ける物を持たせると、活動に参加しやすくなる。 ○不安定なときは、静かな環境(教室のカーテン内など)で休ませたり、好きな道具(または遊び)で遊ばせたりすることで落ち着きやすくなる。 ○嫌なことを無理強いすると、嫌な記憶として残り、次から指導に応じない可能性があるため、無理強いをせずにそのときの本人の気持ちを受け止め、ゆっくり指導する。		
年間指導目標 1. 落ち着いた学校生活を送ることができる。 2. ○○○○・・・	設定理由および指導仮説 1. 衝動性が高く、思いつくとすぐに行動に移し、学習などに継続して取り組むことが難しい。また感情の起伏も大きく、短時間で機嫌が悪くなったり、悪くなったりする。機嫌が悪かったり、いらいらしていたりすると、教師の声も受け付けなくなり、指導が困難になることも多い。また暴言等による周囲の生徒への影響も大きい。学校生活を円滑に送るためには、本人が落ち着いて教師の声を聞ける状態を継続させることが重要と考え、目標1を設定した。 指導にあたっては嫌な経験や記憶が残ると警戒心が高くなるので、本人の気持ちを受け止め、性急に指導しないようにする。 2. ○○○○・・・	
区分と項目の番号 年間指導目標1 心理的な安定: 2 - (2) 人間関係の形成: 3- (1) (2) コミュニケーション: 6- (1)	指導方法 → 配慮事項を踏まえた内容にする ○自分の欲求を通そうとしたり、不調を解消しようとしたりするとき感情が高ぶりパニックになることが多い。自己統制の難しさや急激に感情が高ぶる障害の特性もある。また何らかの同様の経験を重ねるとそれがパターン化されてくる傾向も見受けられる。 昨年度の指導から、パニック後の気持ちの切り替えが早まるような指導も大切であるが、パニックを回避していく方策も必要であるという考えに立ち、場面場面で受容的な態度で気持ちの切り替えができるようにタイムアウトの時間を設けつつ、落ち着いたらできたことを褒め、前向きに生活に取り組める指導を継続していく。 また学習については事前の予告、興味ある活動や物の提示、一度予告してから少し時間をおく。	指導の形態期間 学校生活全般 通年

図8 新様式例

② 個別の指導計画の新様式の内容

障害による困難は学習上、生活上の困難の原因であり、児童生徒個々の障害の特性とも言える。障害による困難は指導目標が変わっても、担任や学部が変わっても大きく変化するものではない。そのため障害による困難が自立活動の一貫した指導の根拠となっているのである。

だが、年間指導目標の設定に当たっては、1年程度で目標が達成できるような具体的な内容であることが必要とされる。指導目標は具体的になればなるほど、指導の場面が限定されることが多い。限定された場面のみで自立活動の指導とするのは、本来の理念から乖離してしまう。障害による学習上又は生活上の困難は学校生活全体にわたって表出することが多いことから、障害による困難は学校生活全体にわたって配慮等を行わなければならない。

そこで障害による困難は指導目標の達成のための効果的な指導方法の検討や、円滑に学校生活を送るに当たってどのような配慮が必要

なのかを考える際のベースとして位置付けてはどうかと考えた。

新様式ではこれらを踏まえ、課題設定シートで推測された障害による困難や指導上参考になる事項を基に配慮すべき点や有効と思われる指導方法などを配慮事項として個別の指導計画に記載できるように考えた(図8)。

③ 指導目標の設定

指導目標の設定は学習上又は生活上の困難の改善、克服を目指すものとなる。基本的には課題設定シートにある児童生徒の気になる行動やそれらを集約したものを選択し、それが改善された後の姿(1年後の姿)をイメージして指導目標を考える。望ましくない行動を消去するのではなく、望ましい行動や心理を形成していくように考えることで、課題から指導目標に転換できるようにした(図9)。

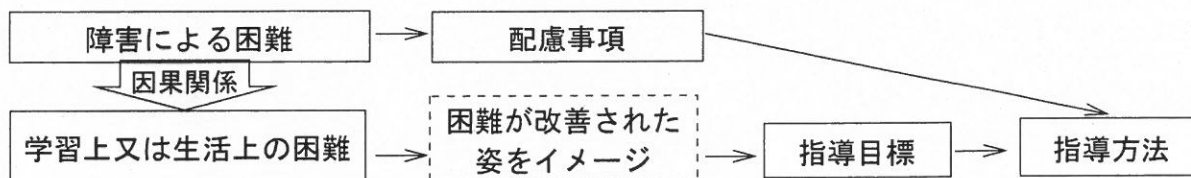


図9 指導目標設定の考え方

指導目標だけを記載しても、学習上又は生活上の困難から、どのような意図で指導目標に転換したのか、分かりにくいケースがある。そこで2年次では目標の設定理由や指導方針を記載する欄を個別の指導計画に設け、児童生徒個々の指導に携わる教師間で共通理解を図ることができるようにした。3年次の実際に作成されたものを通覧したところ、設定理由のみならず指導方針まで記載されていることや、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、設定理由及び指導仮説という項目名に変更した。

(3) 自立活動の個別の指導計画を作成する日程について

月	学級担任の仕事内容	教務部の仕事内容
4月	○児童生徒の実態の概要(個別の教育支援計画A)を作成 ※家庭訪問時に保護者と内容を確認 ○学部のHDDから昨年度の個別の指導計画の電子データをサーバーの個人フォルダに移動する。	○作成日程の提示 ○作成説明会の実施 ○家庭訪問計画の提示 ○電子データ移動の声掛け
5月	○自立活動の課題設定シートの確認と過不足の訂正 (小2, 3, 5, 6年 中2, 3年 高2, 3年) ○個別の指導計画の作成と実践(集団版, 個別指導版)	○個別面談計画の提示 ○課題設定シート作成のグループニング提示
6月	○自立活動課題設定シートの作成 (小1, 4 中1 高1 5日間の設定) 設定日以外でも任意に持つことも可 ※個別面談 ↓ ○個別の指導計画の作成状況の報告と参考になる事項の聴取	○個別の指導計画検討日の日程提示
7月	○個別の指導計画の作成状況の報告と参考になる事項の聴取 ○個別の指導計画検討日(3日間) 設定日以外でも提出日までに任意に持つことも可 ○個別の指導計画の提出(学部主事まで) 学部主事→(地域支援Co, 校内支援チーフ, 研究主任は学部を分担して自立活動の部分のみ回覧)→教務→教頭	○諸表簿の内容確認と作成日程の提示 ○通信票作成日程の提示
8月	○個別の指導計画の電子データはサーバーの個人フォルダに保存 ○指導の記録の作成 ↓ ○指導の結果に応じて個別の指導計画の修正	○電子データ保管の声掛け
9月	↓ ※通信票の作成 ○指導の記録の提出(学部主事)	
10月	○2学期の実践	○指導の記録の助言 ○㊦3年生 個別面談の計画提示
11月 12月	※高等部3年 進路面談の実施	○㊦㊧㊨個別面談の計画提示 ○指導記録等提出物の確認と作成日程の提示 ○通信票作成日程の提示
1月	○指導の記録の作成	
2月	※個別面談 1年間の指導の結果を説明し, 今後の課題を確認 ※通信票の作成	○通信票下書きの助言 ○通信票修正の確認
3月	○指導の記録の提出(学部主事) 修正後, 個人ファイルに振り分けて引き継ぐ 計画と記録の電子データはサーバーの個人フォルダから学部のHDDに移動	○指導の記録の助言 ○引き継ぎ書類の確認 →個人ファイルに振り分け, 学部のHDDへの電子データの保管

個別の指導計画を回覧する時期は7月になっており、実質的に夏休み中となる。これは小学部1, 4年生, 中学部1年生, 高等部1年生の自立活動の課題設定シートや個別の指導計画を作成する日程が影響している。ただしこの間、個別の指導計画に基づく指導をしないわけではなく、他の学年や他の指導の形態については5月中から作成し、順次指導に移行できるようになっている。

(4) 個別の指導計画作成マニュアルの改訂

共同研究が終了した後、個別の指導計画作成のシステムの運営が研究部から教務部にスムーズに移行できるよう、現行の個別の指導計画作成マニュアルを部分的に改訂するようにした。課題設定シートや新様式での作成のための手続きのみならず、どのような根拠でこのような様式になっているかも記載した。

個別の指導計画の様式は教師の異動が繰り返される中で、作成時の理念の継承に失敗し、単なる様式として扱われていくケースが見られる。個別の指導計画作成マニュアルでは自立活動のみならず、すべての指導の形態において、どのように指導目標を設定するのかなども詳細に示すこととし、作成時の理念などを継承できるようにした。

3. 教師の専門性を高め、自立活動の理念を共通理解するために

1) 自立活動についての研修会の実施

担任が個別の指導計画の作成に当たって、留意しなければならないことについて共通理解を図るための研修会を実施した。時期は6月の研究日を利用した。共同研究終了後はこの研修会が教務部による個別の指導計画作成の説明会になることを視野に入れて資料やプレゼンテーションなどを作成した。

表3 研修会の内容

年次	講師	研修会の内容
1年次	教務主任	自立活動を指導するに当たっての内容の組み合わせ方について
2年次	研究主任	個別の指導計画作成マニュアルの読み合わせと個別の指導計画の作成の手続きについて（全ての指導の形態について）
3年次	研究主任	新様式での自立活動の個別の指導計画の作成の手続きについて

1年次、2年次において、感覚や認知に関する資料を研究部で作成・配付し、実態把握の際の参考となるようにした。

2) 教師の少人数グループによる事例検討会の実施

教師の少人数グループを組織し、指導に困難を感じる児童生徒の事例を取り上げ、実態の理解や効果的な指導方法などを協議する事例検討会を実施した。具体的な事例を通して自立活動の指導について、互いに学び合い、教師の専門性を高める機会になると考えた。

(1) 1年次

①少人数グループの組織

対象は小学部2, 3, 5, 6年, 中学部2, 3年, 高等部2, 3年の担任とした。他の学年は課題設定シート（1年次は実態把握シート）を用いて学年内の児童生徒について組織的な実態把握を実施した。

少人数グループはおよそ4人程度とし、次のような観点でアンケートをとって組織した。

- 小中高の学部が混在する。
- 特別支援教育の経験年数が偏らない。
- 教師各自で決める対象児童生徒によって重度の知的障害、自閉症スペクトラム、肢体不自由、重度の重複障害がある児童生徒、二次的な行動障害、その他で領域を分け、同じ領域を希望した教師で編制する。

②事例検討会（1年次）の内容

表4 1年次事例検討会の内容

6月30日	グループメンバーの顔合わせと事例検討会計画の作成
7月14日	2名分の実態把握（20分×2名）
8月31日	2名分の実態把握（20分×2名）
9月21日	自立活動の個別の指導計画の目標設定と指導方法についてと、現時点での指導上の課題について（20分×2名）
10月27日	自立活動の個別の指導計画の目標設定と指導方法についてと、現時点での指導上の課題について（20分×2名）
12月20日	指導の経過と今後の課題（10分×4名）

※最後に各自で事例報告をまとめ、研究部に提出した。

③事例検討会（1年次）実施後の感想

- ・会の進め方等はよかったですと思います。
- ・子どもの事例について話し合ったりアドバイスをもらったりする機会はとても貴重だと思います。
- ・いろいろな視点からの話し合いがなされることもあり、よい点もあった。
- ・少人数グループでの話し合いやスケジュールがはっきりしていたことなど研究に取り組みやすかった。
- ・学部の枠を超えてグループ討議ができたことで、新しい視点から意見をもらうことができた。
- ・学部を超えての検討会ですが、初めは顔と名前が一致せずにいたのですが、会をもつことで他学部の子どもの意識できたのでよかったです。
- ・同じような課題をもつ子どもの話ができるととても参考になった。高等部の生徒にとっては困難の克服よりはできるところを伸ばす方が主になっている。これから伸びる小学部の児童にはよいのかもしれない。
- ・意見が活発に交わされ有意義だった。
- ・グループ内の先生方からアドバイス、提案等ただけてよかったです。
- ・情報交換ができてよかったです。

(2) 2年次

①少人数グループの組織

対象は小学部2, 3, 5, 6年, 中学部2, 3年, 高等部2, 3年の担任とした。他の学年は課題設定シート（1年次は実態把握シート）を用いて学年内の児童生徒について組織的な実態把握を実施した。

2年次では学級ごとに少人数グループを編制した。グループごとに対象児童生徒を1名決め、複数回の事例検討会の中で短期、長期のPDCAサイクルを機能させ、課題設定シートや自立活動の個別の指導計画の新様式について検証できるようにした。

少人数グループは役割分担を踏まえると3人以上必要になるので担任数が2人の学級は複数学年を合わせるなどして調整を図った。

②事例検討会（2年次）の内容

表5 2年次事例検討会の内容

日付	活動内容
6月9日	対象児童生徒の選出
7月7日	対象児童生徒の課題設定シートの作成
8月23日	対象児童生徒の自立活動の個別の指導計画について検討する（ワークシート1に沿って） ○課題設定シートの内容が反映された目標設定になっているか ○障害による困難が反映された内容になっているか ○指導上参考になる事項が、反映された内容になっているか
10月31日	自立活動の個別の指導計画に沿った指導について、途中経過を確認し、課題を検討する（ワークシート2に沿って） ○目標の達成状況と指導上の課題についての検討 ○課題の解決策についての検討 ○ワークシート1の内容に変更はないか
11月24日	自立活動の個別の指導計画に沿った指導について、途中経過を確認し、課題を検討する（ワークシート3に沿って） ○目標の達成状況と指導上の課題についての検討 ○課題の解決策についての検討

	○ワークシート1の内容に変更はないか
	アンケートの回答→研究部に直接提出
1月10日	自立活動の個別の指導計画に沿った指導について、本年度の指導を検討する（ワークシート4に沿って） ○目標の達成状況についての検討 ○次年度に向けた課題と解決策についての検討

③ワークシート1実施後の感想（自立活動の個別の指導計画の新様式）

- ・話し合いはしやすかったと思います。
- ・児童生徒の実態理解になると思いました。
- ・より具体的になり、明確になったと思われま。
- ・TTで検討ができた。互いに確認できました。
- ・なぜ、何のために…という根拠は必要だし、これがあることで考える柱ができる（指導・支援の柱かなあ）と思います。
- ・誰が見ても分かりやすいと思います。
- ・TT間で生徒の課題を確認したり、対応の仕方について確認することに役立ったと思います。
- ・話し合いながら配慮事項を検討できたことで指導法も協力して考えることができた。
- ・配慮事項を文章にして項目化できたので、とても指導しやすかった。特に対象生徒が指導の難しい生徒だと引き継ぎを受けていたため非常に助かった。
- ・共同研究のおかげで日々を乗りきれた気がします。
- ・TT間の共通理解が改めて図れたこと、T1の先生の考えや考え方が改めて分かったこと。
- ・この様式でよいと思います。
- ・複数の視点で子どもたちを捉えることができた。

④事例検討会（2年次）実施後の感想

- ・毎回、同じことを繰り返し少しずつ追加している感が否めない。流れをもっと単純にしていれば分かりやすい。ワークシートの内容を重ねるのではなく、フローチャートで示すとか。
- ・話し合いの日程的な間隔はあるようで、休業日前後だったり、意外に指導期間は短い。
- ・抽出児童について、共通理解が深まり、一緒に活動する場面で役立った。
- ・身近な先生方と検討ができてよかった。アドバイスなどをいただく貴重な機会でした。
- ・複数の目、しかも異なる学級の先生方など、様々な見方・考え方、角度で、子どものよりよい支援に迫ることができたことがよかった。
- ・クラスの中で特に支援の難しい生徒を対象としたことで、担任間での共通理解が深まり、同じような支援をすることができた。
- ・日々の指導において対象生徒には特にTT間で情報や配慮の仕方を密にして一緒に取り組めたことがよかった。
- ・TT同士で生徒の気になる行動について話し合い、配慮事項を共通認識し、日々の指導に当たることができ、大変指導しやすかった。
- ・指導のポイントも焦点化され他学年の先生方への説明や連絡もしやすかったし、今後進学に当たり高等部の先生方への引き継ぎも内容が明確にできそうである。
- ・検討会の時間が短く、別の日にも行った。
- ・共働の観点から、抽出児童生徒に対してTTで検討会ができたことが有効に感じました。
- ・TTということで、抽出生徒についての検討はやりやすかったのかなと感じています。
- ・1・2組別々に行わず一緒に行ってきたので、時間が多少掛かりましたが、とても有効だったと感じました。
- ・いろいろな先生方の視点から、分析や指導法を考えることができたのでよかったと思う。
- ・学年全体で共通理解して指導ができたので、効果、結果につながった。

(3) 3年次

①少人数グループの組織

対象は全学部全学級とした。3年次では学級ごとに少人数グループを編制し、グループごとに対象児童生徒を1名決めた。1、2年次は自立活動の個別の指導計画など

を活用し、日常の事例を用いての検討会を実施した。3年次は授業研究会をもち、自立活動の指導が実際に授業の中でどのように生かされているのか検証できるようにした。

また3年間の共同研究の中間報告として県立学校訪問指導をミニ公開研究会と位置付け、登米市内の幼小中高、県内の特別支援学校に案内することとした。そこで少人数グループではミニ公開研究会で授業提供するグループ（公開グループ）と他のグループ（授業研グループ）の二つに分け、それぞれのグループの活動に負担の差が出ないようにした。

少人数グループは役割分担を踏まえると3人以上必要になるので担任数が2人の学級は複数学年を合わせるなどして調整を図った。

表6 3年次事例検討会の内容

	授業研グループ	公開グループ
6月	研修会后 ○対象児童生徒の選出	研修会后 ○対象児童生徒の選出
5日	○第1回授業研究のための授業を選択 (6月6日～8月27日までの任意の1回)	○指導の形態、単元・題材名の仮決定
7月	○対象児童生徒の自立活動の個別の指導計画についての検討	○対象児童生徒の自立活動の個別の指導計画の検討
17日	○第2回授業研究のための授業を選択 (9月5日～10月29日までの任意の1回)	○指導案作成に向けての説明会 ○目標、学習活動、個に応じた指導の検討 ○指導案作成の分担
8月28日	○第1回授業研究 ・ビデオを視聴しながら授業の記録を作成する。 ・対象児童生徒の自立活動の指導計画との関連を確認する。 ・他に考えられる指導の工夫はないか。 ・自立活動の個別の指導計画に修正事項がないかどうか。	○グループ内での指導案検討会 1回目 (要請に応じて研究部員が出席)
9月4日	○第2回授業研究のための計画作成 ・授業の学習活動を列記する。 ・対象児童生徒にとって充実した学習活動となるためにどのような指導の工夫が考えられるか、自立活動の個別の指導計画を参考に検討する。	○グループ内での指導案検討会 2回目 (要請に応じて研究部員が出席)
9月18日	各学部ごとに研究部が主催して指導案検討会を開催 ○下書き提出 9月25日 学部主事→研究主任→教務主任→教頭(3日で回覧) ○清書提出 10月2日	
10月30日	○学校訪問指導(ミニ公開研究会)への参加	○学校訪問指導(ミニ公開研究会)での授業公開

日		
10月31日	○第2回授業研究（ビデオを視聴しながら） ・対象児童生徒にとって充実した学習活動が展開できたか。 ・他に考えられる指導の工夫はないか。 ・自立活動の個別の指導計画に修正事項がないかどうか。	○分科会での記録の整理

VI. 結果と考察

共同研究の評価については主にアンケートによる教師の意識調査の結果と学校訪問指導（ミニ公開研究会）の中での指導主事の指導を基にした。1年次、2年次のアンケートの結果については先述したとおりである。ここでは3年次に実施した2回のアンケートを基に考察していく。

1. 学校訪問指導（ミニ公開研究会）における指導主事の指導から

- 1) 特別支援学校14校中5校で自立活動についての研究を進めている。背景の一つとして、通級による指導で自立活動の指導がますます重要となっているため、ニーズが高まっている。
- 2) 迫支援学校が教師の指導力の向上に尽力し、その指導力を地域貢献に生かしていることが分かった。
- 3) 新しい学習指導要領の自立活動について、資料とスライドによる概要説明を受けた。その概要は以下のとおり。
 - ①自立活動の指導計画は最初から集団で指導することを前提として立案するものではないこと。
 - ②学校の教育活動全体を通じて適切に指導すること。
 - ③自立活動の内容は児童生徒の実態に応じて必要な項目を選定し、相互に関連付けて設定すること。
 - ④授業の中で自立活動の指導を実施する際には各教科の内容や目標を逸脱して指導するものではないこと。
 - ⑤各教科・領域の指導で取り上げることができない障害による学習上又は生活上の困難を自立活動の時間の指導で取り上げる。
 - ⑥障害や疾病の種類で特定の区分のみを取り上げて指導することがないようにする。
 - ⑦教師の興味・関心や得意分野で指導目標を設定することがないようにする。
- 4) 児童生徒の将来像を描きながら、指導目標を設定できるとよい。
- 5) 共同研究については、学部の枠を外して話し合いができるのはよいことである。今後も積極的に行ってほしい。
- 6) 自立活動については指導内容の選択や組み合わせ方に注目しがちだが、「主体的で対話的な深い学び」を目指した指導方法についても検討して行ってほしい。

2. 学校訪問指導（ミニ公開研究会）で実施したアンケートの結果から

- 1) 他校からの参加者14名
特別支援学校6名 小学校2名 発達支援センター6名
- 2) アンケートの回収数・・・・・・・・・・6件
- 3) 複数教師で話し合いながら、児童生徒個々の自立活動に必要な実態把握を行う方法についての質問から

- (1) このような方法が自分の学校でも必要だと思えますか？（単独回答のみ）
- ① 実施中または検討中・・・ 3件（全て特別支援学校からの参加者）
 - ② 必要だと思うが実施は困難・・・ 3件
- (2) 必要だと思うが実施は困難とする回答の理由について。（複数回答可）
- ① 時間の工面が難しい・・・ 2件
 - ② 複数教師が集まるのが難しい・・・ 2件
- 4) 自立活動の個別の指導計画を作成した経験がある方（5名）への質問から
- (1) 作成時に特に難しいと感じた項目は何ですか？（複数回答可）
- ① 児童生徒の実態把握・・・ 3件
 - ② 自立活動の目標の設定・・・ 3件
 - ③ 自立活動の指導の内容の選択・・・ 0件
 - ④ 自立活動の指導方法・・・ 3件
 - ⑤ 特に感じない・・・ 0件
- (2) 作成した個別の指導計画について他の先生から意見をいただく機会がありましたか？
- ① あった・・・ 5件
 - ② なかった・・・ 0件
- (3) どなたから意見をいただける機会があったのか？（複数回答可）
- ① 教頭・・・ 1件
 - ② 教務主任・・・ 1件
 - ③ 学部主事・・・ 2件
 - ④ 学年もしくは学級内の担任・・・ 4件
 - ⑤ 校内支援部などの先生・・・ 1件
- (4) 個別の指導計画について他の先生から意見をいただく機会があった方がよいと考えますか？
- ① あった方がよい・・・ 5件
 - ② なくても支障はない・・・ 0件
- 5) 自立活動の指導を考える際にほしい資料，参加してみたの感想など（自由記述）

- ・項目選定のポイント
- ・このような児童生徒にはこのような指導といったマニュアル的なもの
- ・事例対象を挙げて，皆で中心的な課題を見だし，指導目標を設定する研修
- ・本日はありがとうございました。自立活動についての研究，大変参考になりました。
- ・今回の研究発表が大変参考になりました。

学校訪問指導（ミニ公開研究会）の参加者によるアンケートからは，特別支援学校において児童生徒の実態把握を複数教師で行うことが多くなっている傾向が見て取れる。多角的な視点で情報を集められるとともに，客観性を高め，共通理解を図る上でも複数教師で実施するメリットは大きい。これは本研究の1，2年次に実施したアンケートの結果からも同様の傾向が見られた。

また複数教師で実態把握を行うことで，指導主事の指導にあった「障害や疾病の種類で特定の区分のみを取り上げて指導する」ことや「教師の興味・関心や得意分野で指導目標を設定する」ことも抑止できるのではないかと期待される。特に本研究のように帰納法を参考にした実態把握や個別の指導計画の作成は，あくまで仮説であるため，指導による実証と修正を常に繰り返す必要がある。だが特定の研究者や専門家の意見も一つのデータとして扱えるため，より客観的な視点から考えることができる。

通常の学校等からの回答では複数教師での実態把握は実施が難しいとする回答が多く，

時間の工面や複数教師が集まることの難しさをその理由としている。背景として教師の多忙化などが考えられる。だが個別の指導計画の作成に際して他の教師からも意見をもらう機会を望んでいることや、複数教師で取り組むことへのメリット、地域の特別支援教育の充実なども含めて考えれば、学校の課題として組織全体で考えていく必要がある。

アンケートの自由記述の中に児童生徒の特性に応じた指導についてマニュアルを望む声があった。医療や生化学の進歩が著しい昨今であっても、障害や疾病の全容が解明されているわけではない。そのため統計的な手法や経験等に基づいた図書や資料が多くならざるを得ないのが現状である。個々の教師は幅広い視点で情報を集めて自ら研修を積み、組織はそれを集約し、個に応じた指導の充実に努めるためのシステムを構築していく必要があるだろうと考える。

3. 本校教師に実施したアンケートの結果から

1) 授業研究を通じたアンケートの結果から

本年度は授業研グループごとに2回の授業研究を実施した。それぞれの授業研究の内容については別紙資料を参照していただきたい。

第1回授業研究を実施した後、小学部、中学部の教師を対象にアンケートを実施した。授業の中で自立活動の個別の指導計画にある目標と関連した活動の数と配慮事項と関連した活動の数をそれぞれのグループごとにまとめたところ以下のとおりとなった。

表7 第1回授業研究の結果

	小学部					中学部	
	1	9	4	1	2	6	3
目標と関連した活動(○)の数	1	9	4	1	2	6	3
配慮と関連した活動(△)の数	3	9	3	2	3	14	7

*公開グループは含まれていない

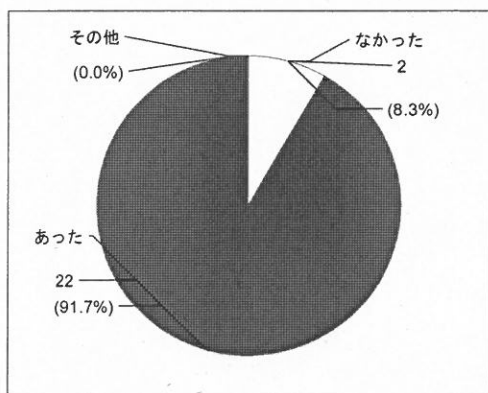


図10 授業研究の中で自立活動との関連があったか

第2回授業研究を実施した後、小学部、中学部、高等部の教師を対象にアンケートを実施した。

授業研究の中で自立活動の個別の指導計画との関連は見られたかとの質問に対して図10のような結果となった。また自立活動の個別の指導計画を念頭において授業を実施することで、個に応じた指導が充実できるか、障害による学習上、生活上の困難の克服や改善につながると考えるかとの質問に関して図11、12のような結果となった。

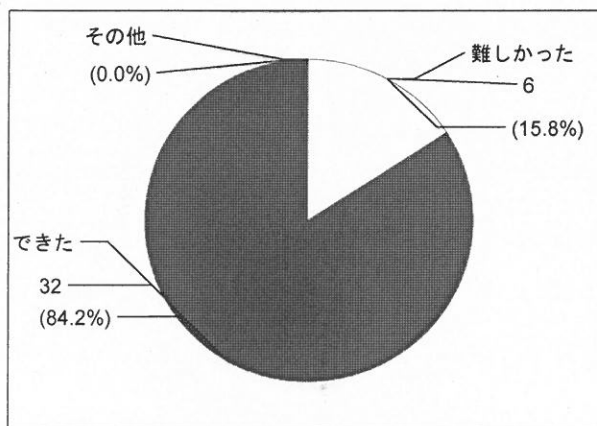


図11 個に応じた指導の充実

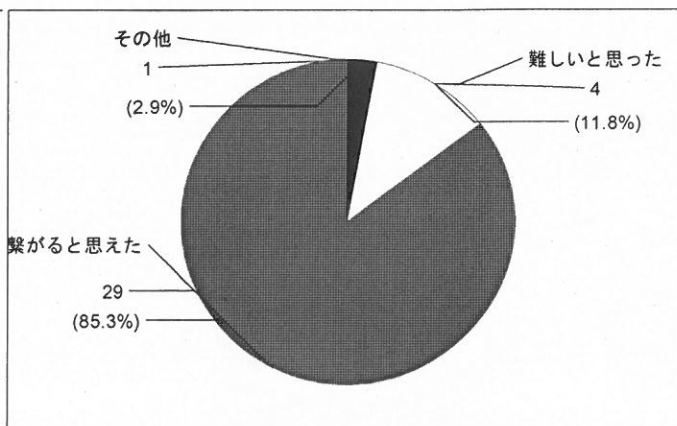


図12 中長期的に見て障害による困難の克服や改善につながるか

少人数グループ内で協議しながら授業研究を進めていたが、自立活動の関連性がなかったと回答する教師が小学部，高等部に1名ずついたことで、グループ内での共通理解についてはやや疑問が残る結果となった。

1回目の授業研究，2回目の授業研究とも，授業の中で自立活動の指導と関連する場面が多く見られている。しかし自立活動の指導を念頭において授業を実施することで，中長期的に障害による学習上，生活上の困難の克服や改善につながると考えるかという質問に関しては約1割強の教師が難しいと考えている。その主な原因として指導に当たる教師間での共通理解が挙げられ，次に単元や題材によって取り扱いに難しさがあると考えられている。教師間の共通理解では，自立活動に対する考え方の共通理解と，担任する児童生徒の目標や指導方法の共通理解が挙げられていた。障害による学習上，生活上の困難は学校生活全体の中で多方面に表れる。そのため自立活動の指導は授業だけではなく，学校生活全体を通して指導するものとされている。様々な場面で効果的に指導するためにはTTを組んでいる担任間での共通理解が欠かせないことを示唆するものとする。

2) 自立活動の個別の指導計画に関する課題と改善策に関するアンケートの結果から

3年次の研究の中で自立活動の個別の指導計画に関する改善点をいくつか提案し，それに対する考え方をアンケートで調査した。1回目の授業研究後のアンケートでは，その時点で研究部が捉えている課題を挙げ，他に課題がないかどうか自由記述で回答してもらった。2回目の授業研究後のアンケートではそれらの課題に対する解決策を提案し，それに対する考えを自由記述で回答してもらった。

1回目の授業研究後のアンケート（課題の洗い出し）

自立活動の個別の指導計画に関して研究部で把握している課題

- ① 課題設定シートで作成時点からの2年次，3年次で修正される内容に関して明確な記載の仕方が必要であること。
- ② 課題設定シートに2年次，3年次の担任名を記載する欄が必要であること。
- ③ 課題設定シートの内容が指導目標の設定等に反映されていないものが散見されるため，個別の指導計画の作成について共通理解の徹底が必要であること。
- ④ 設定理由の多くで理由のみならず，指導の方針まで記載されていることもあり，設定理由と指導仮説の双方が記載できるようにすること。
- ⑤ 第三者からの意見を得られるシステム構築が必要であること。
(3年前の共同研究でも必要性は認められたがシステム化までには至らず，個別の指導計画の検討日を設けることで代替を図った経緯がある。)
- ⑥ 重複障害がある児童生徒について，それぞれの障害種に応じた自立活動の指導が記載できるようにしておくこと。

自由記述の回答

- ・課題設定シートの内容が目標設定に生かされていないこと。課題設定シートには，児童生徒の困っている点やできるようになると楽であろうと思われる点（今できていない，課題と捉えたい点）が多く記されたと思うが，指導目標には達成が全く不可能なことは挙げられてはいないはずなので，反映されていないと見なされたものがあつたのではないか。実践しようとする時，どうしても両者にずれが生じる場合があると私は考えているため。
- ・様式番号（課題設定シートの）
- ・「人とかかわり」→「人との関わり」 ※課題設定シートの4
- ・クラスのTTで話し合うのですが，第三者からの意見も必要だと思いました。キャリア等でも異なってくることがあるのかなと・・・
- ・文章での記述があまり多くならないような工夫もお願いしたい。
- ・どうしても文章量が多くなってしまいうこともあり，作成のしやすさや次年度以降活用しやすいようにすることも考えると，少ない文量で効率よく作成できるようにしたいと思いました。感想です。

2 回目の授業研究後のアンケート（課題の改善策）

自立活動の個別の指導計画に関して研究部で提案する改善策

- ⑦ 課題設定シートは3年更新であることには変わらないが、2年目、3年目の担任名を記載する。また内容に修正（加除、修正等）があった場合の記載方法を明記する。
- ⑧ 課題設定シートに**重複障害者**であるかどうかを明確にする欄を設けてはどうかと考た。
- ⑨ 自立活動の個別の指導計画でも**重複障害者**であるかどうかを明確にする欄を設けてはどうかと考た。
- ⑩ 今年度、作成したものを回覧したところ、目標の設定理由には理由のみならず指導の方針も記載されているものがほとんどだった。また新学習指導要領解説からも指導仮説の欄の設定が示唆されているので、**設定理由および指導仮説**という項目名に変えてはどうかと考た。
- ⑪ 回覧のシステムに自立活動のみ、**地域支援Co**、**校内支援チーフ**、**研究主任**を入れたシステムを取り入れてはどうかと考た。

自由記述の回答

- ・⑩については一般的な学習指導案の指導観や研究の「主題設定の理由」等で書いてきた形が書きやすいと思われるので提案通りでよいと思う。
- ・⑪についてはお目通しいただけるのはありがたいが、他校では「その子のことがよく分からないとなかなか難しい」というご意見があった（お目通りのご本人から）ので一応記載しておく。
- ・見て分かりやすく、そして書きやすい形式をお願いします。
- ・配慮事項は年間指導目標等の枠の下の方が分かりやすいように（一般的には）感じます。
- ・わかりにくい形式だった。配慮事項は一番下に書く方がよい。
- ・必要なことと考えていますので、研究部の方針に賛成です。
- ・サーバーの記述を「教員共有フォルダ」変更 個人フォルダは「個人に割り当てられたフォルダ」に変更する。各学部の HDD は新規購入する物？ 現在の各学部の HDD は写真と動画のバックアップ用として使用しているため。各学部の教員共有フォルダの中に期日を決めて引き継ぐようにしたらどうか。
- ・2年次、3年次の担任を記入し、内容の加除修正ができるようにしたことは、児童生徒の実態をより明確に把握し、継続した支援を行うためにもとても良いと思いました。
- ・課題③の解決について難しいところです。「推測される障害による困難」の書き方についても各自の理解によっては異なる印象があった。
- ・⑦～⑩書きやすくなると思うので良いと思います。
- ・⑪見てくださる先生の負担にならなければ、意見をいただけるのは有り難いです。学部の違う先生に見て頂くと視点が（良い意味でも悪い意味でも）違うこともある気がします。
- ・⑩指導仮説と指導内容の違いで混乱する方もいるかと思うので、項目ごと記入する内容の具体をお伝えしておくことと担当者ごとによる内容の差の開きが少なくなるかなと思います。
- ・⑪計画作成後の学年での読み合わせに参加する方法もあるかなと思います。修正もしやすい気がしますし、後から何度も直すのは非効率的な気がします。回覧者が増え、手元に戻るのがより遅くなるのも心配と言え、心配です。ただ第三者から意見をもらう場面は必要だなと考えています。
- ・改善策とても良いと思います。
- ・⑩指導の方針、指導仮説、指導方法といろいろあると思いますが、書き方（内容）の共通理解が図られなければ、書きづらさや読みづらさは変わらないのではないのでしょうか。徹底すべきだと思います。
- ・⑪回覧のシステムを取り入れたとして、回覧時期や最終的な集約などはどうなりますか。
- ・改善案で良いと思います。
- ・課題設定シートは話し合いを重ねる度に修正が必要などころがありました。⑦にあるように、修正があった場合の記載方法を明確にし、話し合った内容を反映させるとよいと思います。
- ・上記改善案に賛成です。まずやってみて、また検討していけばいいのかなと思います。
- ・回覧システムを取り入れることはよいと考えます。見識ある先生方から助言をいただけるのはありがたいです。でも実態を十分知っているのは担任ですから、見解に相違が生じる場合もあります。
- ・授業研グループでは教科や生単などの学習で、その子の自立の課題を意図しながら授業をするという取り組みが難しい例がありました。
- ・教師の研修、研究の意を汲み具現化するための共通理解がもっと必要（時間的にもやり方や取り組み方）と感じました。
- ・書き慣れていないこともあると思います。しっかりマニュアルを読み込んで、系統性を持たせたもの、授業に生かせるものにしていかなければならないと思います。
- ・話し合いの時間はとってもらったものの十分な話し合いのもと、そして共通理解のもと作成されたものか、少々疑問が残るものもあつたように思います。
- ・③の課題に関して「課題設定シート」という名称だけを見て、「課題を設定するためのシート」という誤解は生じないでしょうか。「課題設定シート」作成の目的が配慮事項の確認や目標設定及び指導方法の設定に繋げるものであれば、「課題確認シート」という名称も考えられるのではと感じました。
- ・研究部案でよいと思います。

アンケートの回答から大きく個別の指導計画の書き方、個別の指導計画の回覧について意見が多く集まった。

(1) 個別の指導計画の書き方について

課題設定シートに基づく指導目標の設定の仕方、目標の設定理由及び指導仮説の書き方について教師間で共通理解を図る必要があると考える。基本的な書き方のパターンとして以下のような文例を考えてみた。

- ・ 本生徒の課題設定シートでは～のような特徴がみられた。
- ・ これらは主に～に起因すると考えられた。
- ・ そこで障害による困難は～ではないかと推察された。
- ・ 課題設定シートでは主に～の場面で～のような困難が見られる。
- ・ これらの課題が解決することで～のようになるであろうと考え、指導目標を～に設定した。
- ・ 障害による困難や、配慮事項にある～や～などに留意し、～のように指導することで、～のようになるだろうと考える。

またこれらの書き方はマニュアルに記すだけでなく、次年度以降に実施する個別の指導計画作成の説明会でも触れ、教師間で共通理解を図る必要があると考える。

配慮事項は指導目標の達成のためだけでなく、その児童生徒が円滑に学校生活を送るために必要な方策でもある。また現在の指導目標が達成された後の次の課題や目標として挙げることもできる発展的な部分も含まれている。配慮事項は指導目標を設定する以前に障害による困難を踏まえた上で考えることとなる。その上で課題設定シートにある具体的な課題を解決するための指導目標を設定していくのである。そのため、個別の指導計画では指導目標よりも上位に配慮事項を位置付けている。指導目標を達成するための配慮事項ではなく、それも含め、障害による困難を踏まえた上で学校生活を円滑に送るための配慮事項であることを再度共通理解しておきたい。

(2) 自立活動の個別の指導計画の回覧について

現在、個別の指導計画は担任間での読み合わせ後、学部主事、教務主任、教頭、校長の順で回覧されている。新担任による児童生徒の引き継ぎ事項の確認や、課題設定シートの作成なども重なり、提出時期は7月になっているが、指導に途切れがないように、5月から個別の指導計画の作成と指導は始まっている。

現在の個別の指導計画の回覧システムは平成27年度の共同研究の際、研究のための組織である、活用と管理に関する部会で提案され、研究全体会を経て開始された。当時も活用と管理に関する部会の中で学級担任に指導目標や指導方法などに意見をもらえらるシステム化ができないか議論されたが、業務量の膨大さからそこまで踏み込むことができなかった。学部主事や教務主任、教頭は文章の整合性や表記などを中心に回覧するシステムで、指導目標や指導内容の妥当性などは、担任間での読み合わせのときに共通理解も含めて任せられることとなった。

業務量の膨大さもさることながら、当時は学部主事に学級担任外の教諭が学級担任の作ったものに意見する抵抗感も強かった。だが逆に第三者からの意見、特にミドルリーダーに携わる教師からの意見を求める声も根強く残っていた。そこで本研究では自立活動の個別の指導計画に限り、学部主事と教務主任の間にミドルリーダーの教師を取り入れた回覧を提案した。ミドルリーダーは地域支援コーディネーター、校内支援主担当、研究主任とし、三人で1学部ずつ分担しながら回覧することとして提案した。

アンケートでは歓迎する意見がある一方で、回覧する期間や学級担任外ということでの意見の危惧感などがある。これらミドルリーダーの意見は文章の整合性や表記ではなく、指導目標や指導方法等の内容についての意見であり、必ずしも学級担任に修正を迫るものではない。あくまで第三者としての意見であり、その意見と児童生徒を照らし合わせて、最終的に検討するのは学級担任にあることを明記しておきたい。回覧する期間

に関しては今後、学部主事や教務主任、教頭に改めて意見を聞きながら、役割の分担ができないかどうかなども含め、検討していく必要があるだろうと考える。

3) 授業研究の感想から

授業の中で自立活動の指導が生かされていたか、またグループ内の話し合いの中で授業の改善に向けた意見を得ることができたか、授業研究を経ての感想などを自由記述で回答してもらった。

- ・ 授業の内容により、十分生かされたとは言い難いことがあるのは当然で仕方ないと思うので、特に問題ないと思う。
- ・ 授業の改善に向けた意見は、今回学部全体で検討する場があった（初任研）ために、グループ内だけ以上に貴重な意見をいただけてとてもよかった。
- ・ 普段から自立活動の目標を念頭に授業をしているので、今回、授業の分析をして改めて関連が検証された。
- ・ 複数の教師で検証することで、多角的に分析することができた。
- ・ じっくりと同じ学年の先生方と、担当の子どもたちの様子、付けたい力、支援のあり方などを話し合う、とても、有意義な時間となったと思います。
- ・ T・Tの先生方それぞれのお考えを知り、それをみんなで練り直すとても良い経験をさせていただいたと思います。
- ・ 動画を繰り返し見て、対象児の反応や動き、先生の指導の仕方を担任間で話し合えたのが良かった。改めて、授業のねらいを確認でき、ねらい通りの授業の所もあった。
- ・ 生かされていたと思います。
- ・ 生かされていたと思います。TTとの話し合いの中で参考になることが多々あり、改善に繋がったと思います。
- ・ 授業の中で自立活動の指導が生かされていたし、TT間の話し合いも有意義なものとなった。
- ・ 自立活動の指導が生かされているものが多くありました。しかし、検証してみると入っていない配慮も何個かありました。普段、一人の生徒だけをずっと観察することは無いので、ビデオを見て、生徒の特性や支援の方法を深く知ることができました。TTの先生方と改めて指導の仕方などをも話せたのが良かったです。

共同研究に関して教師同士で打合せを持てる機会は年間を通すと多くはない。それでも授業中の児童生徒の様子や教師の指導の様子をビデオとワークシートを用いて、分析的に振り返り、話し合いを持てたことに、好意的な意見が多いのが分かる。教師間の意見交換の中で共通理解を図るのみならず、それが研修にもつながっていることを示唆するものである。

今後も共同研究のみならず、学校訪問指導などの既存の機会を捉え、授業研究の充実を図っていくことが重要だと考える。

VII 研究のまとめ

平成28年度から3か年にわたり、自立活動に関する共同研究に取り組んできた。本研究を通して教師間で次のような共通理解を図ることができた。

- ① 自立活動の指導は他の教科等の指導と異なり、あくまで児童生徒の実態から考えて目標を設定すること。
- ② できないという表面上に表れる行動から原因を推測しながら障害による困難を捉えようとする。
- ③ 帰納法を参考に複数教師で実態把握を実施したり、少人数グループでの事例検討会を実施することで、多角的な視点からの意見を出し合ったり、教師間の共通理解を図ることができたりすること。

またこれらの共通理解を図る中で、そのよさを自立活動の個別の指導計画の様式や作成のためのシステムに生かしたことが成果として挙げられる。

一方、自立活動に対する考え方の共通理解を図るための機会が今後も継続して必要であ

ること、自立活動の個別の指導計画の書き方に関して、共通理解を図ったり、分かりやすくするための改善が必要であること、回覧のシステムにおいて効率化を図る必要があることなどが課題として挙げられた。

自立活動の指導は特別支援教育独自の指導の領域である。それだけに特別支援教育のシンボルとも言える。今後も継続して研修や課題の改善に取り組み、児童生徒への指導の充実や地域の特別支援教育への発信を継続していかなければならない。

参考文献等

文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』 開隆堂（2018年）

文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編』 海文堂（2009年）

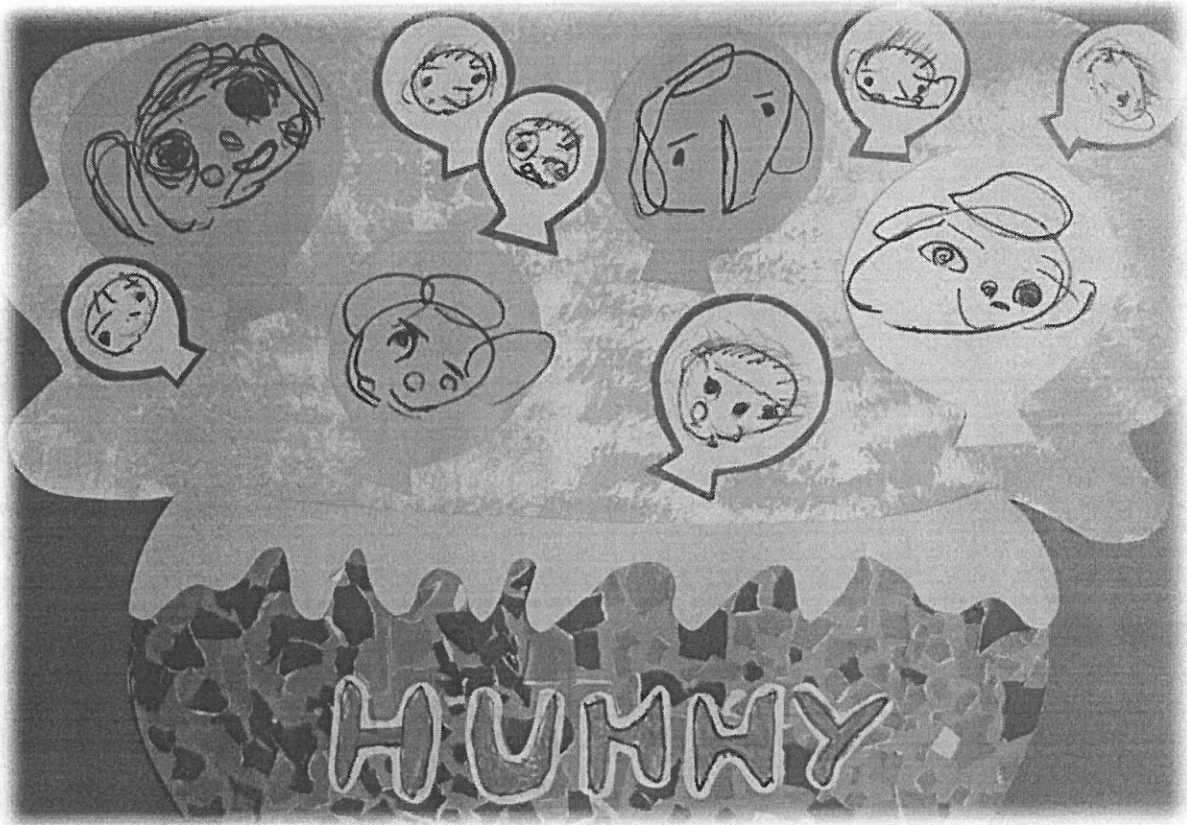
宮城県立古川支援学校 『平成17年度 ふるかわ 第18集』（2005年）

安藤隆男 『自立活動における個別の指導計画の理念と実践—あすの授業を創造する試み』 川島書店（2001年）

日本創造学会 www.japancreativity.jp/category/group.html

資料1

個別の指導計画作成マニュアル



個別の指導計画作成マニュアル

平成30年度改訂版

I 迫支援学校における個別の指導計画とは

本校での教育課程において、児童生徒の実態に応じた、きめ細かな指導ができるように作成されるものです。

個別に教育課程を作成する個別の教育計画（IEP）とは異なります。

従って目標設定や指導内容の選択にあたっては、本校教育計画にある指導の形態の目標に実態を加味して設定したり、教科別指導内容表から実態に応じて指導内容を選択したりすることが必要になってきます（自立活動を除く※1）。

※1：各指導の形態の目標や指導内容はあらかじめ決められた項目から、児童生徒の実態に応じて選択する。これに対し自立活動は児童生徒の実態から、障害による困難を推測し、自立活動の指導内容を必要に応じて組み合わせることで生活や学習上の困難を克服する指導を設定する。このように各指導の形態は部品が準備されていて実態に応じて組み立てるのに対し、自立活動は実態を基に部品から作り上げる作業と似ている。

II 迫支援学校における個別の指導計画の構成

1. 様式1-1 児童生徒の実態の概要（個別の教育支援計画A票プロフィールを参照）
2. 様式2-1 個別の指導計画（集団版）※2
3. 個別の指導計画（個別指導版）※3
 - 1) 様式2-2 日常生活の指導
 - 2) 様式2-3 国語
 - 3) 様式2-4 算数・数学
 - 4) 様式2-5-1 自立活動の課題設定シート
 - 5) 様式2-5-2 自立活動の個別の指導計画

※2：個別の指導計画（集団版）は年間指導計画と自立活動の個別の指導計画を加えることで個別指導版と同様の機能を果たすものとする。

※3：個別指導版は個別指導であったり能力別の小集団の指導を抜き出して作成するものとする。

III 個別の指導計画の取り扱い

完成した紙媒体は学部保管用に主事まで1部提出し、原本は個人ファイルに綴じます。個人ファイルは職員室内の施錠できる戸棚に保管し、管理者の退庁時に施錠、出勤時に解錠します。

電子データは年度初めに学部のHDDからサーバーの個人フォルダに移動して引き継ぎを受け、完成後はサーバーの個人ファイルに保管します。年度末に学部のHDDに移動し、確実に次年度に引き継ぎます。

IV 個別の指導計画の作成方法

1. 児童生徒の実態の概要

様式1-1 個別の教育支援計画A票に準じます。個別の教育支援計画と一緒にファイリングすることで個別の指導計画の実態の概要に替えるものとします。

2. 個別の指導計画の様式

1) 集団版

様式2-1

個別の指導計画 (集団版)

小学部○年○組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
---------	----	-------	----	--------------------

学習場面	年間指導目標	指導内容・方法
遊びの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに親しみながら，活発に身体を動かすことができる。 ・友達と関わりながら，協力して準備や片付けに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちと競争する場面を取り入れたり，しゃがむ，立つなど大きく身体を動かす遊びを取り入れたりする。 ・特に準備や片付けで友達と一緒に物を運んだり，教具を広げたりする活動を設ける。
生活単元学習	<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記載してください。</p> <p>○学習場面→詳細はP6 指導の形態+道徳+特別活動+総合的な学習の時間 ※集団で指導する指導の形態について記載します。 ※当該児童生徒が学習している指導の形態を記載します。 ※選択していない指導の形態には斜線をひいてください。 ※小学部には総合的な学習の時間はありません。 ※中学部，高等部は「保健体育」の表記になります。</p> <p>○年間指導目標→詳細はP6 教育計画にある各指導の形態のねらいを基に，児童生徒の実態を加味し，個別化，構造化された目標を記載します。</p> <p>○指導内容・方法→詳細はP7 児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして，個に応じた指導方法を設定します。</p> <p>○書式 書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt～9ptの大きさで使用してください。 サーバーにある書式を基本としますが，行数，文字数の多少の増減は構いません。 記載量が多い場合，2枚にわたることもあります。 概要ですので，日常生活の指導，国語，算数・数学，自立活動内容は詳細版に記載してください。</p> <p>○電子データの取り扱い 作成した電子データはサーバーの個人フォルダに保管し，年度末に各学部のHDDに移動して引き継ぐようにします。</p>	
音楽		
体育		
道徳		
特別活動		

1) 日常生活の指導

様式2-2

個別の指導計画（日常生活の指導）

小学部	1年	1組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
-----	----	----	----	-------	----	--------------------

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に活動に参加することで学校生活のリズムに慣れる。 ・教師と一緒に身辺処理に取り組みながら、望ましい生活習慣を身に付ける。 ・朝の会や帰りの会などで教師と一緒に活動に取り組む中で教師の指示を意識した行動を増やすことができる。
--------	---

指導項目	指導目標	指導内容・方法
衣服の着脱	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に着替えに取り組み学校生活のリズムになれる。 ・脱ぐ、着るなど教師と一緒に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・注意の集中を維持できるようにカーテンやついたてで仕切られた一角を設け、モデルとなる児童2～3人と一緒に着替えに取り組む。 ・袖口をあげる、ズボンを半分下ろすなど、動作のきっかけを教師がすることで自分で着替えに取り組める場面を増やす
身の回りの整理		<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記載してください。</p> <p>○年間指導目標→詳細はP6 個別の指導計画（教育課程全般）にある日常生活の指導の年間指導目標と同じにしてください。</p> <p>○指導項目→詳細はP8 基本的にはサーバーにあるものを使いますが、実際の指導の状況に合わせて指導項目を増やすことはことも可能です。また身辺処理がほとんどできる児童生徒や重度の児童生徒については指導する項目が少なくなると思いますのでその際は斜線をひいてください。</p> <p>○指導目標 児童生徒の実態に応じて指導目標を設定します。その際、指導内容表の生活科を中心に社会科の集団生活ときまり、理科の人体、職業・家庭科などを参考にさせていただくと目標の設定がしやすいです。 ※日常生活の指導は合わせた指導なので必ずしも指導内容表と一致するとは限りません。</p> <p>○指導内容・方法→詳細はP7 児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして、個に応じた指導方法を設定します。 目標を達成するために必要な配慮を具体的に記載するようにすると分かりやすくなります。</p> <p>○書式 書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt～9ptの大きさで使用してください。 サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。記載量が多い場合、2枚にわたることもあります。</p> <p>○電子データの取り扱い 作成した電子データはサーバーの個人フォルダに保管し年度末に各学部のHDDに移動して引き継ぐようにします。</p>
食 事		
排せつ		
清 潔		
朝や帰りの活動		
あいさつ		
係の仕事		

3) 国語科, 算数・数学科

様式2-3

個別の指導計画 (国語)

小学部 1年 1組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
-----------	----	-------	----	--------------------

年間指導目標	・意思を伝え合う必要性に気付き, 非言語的な手段も含めて意思を表現する能力と態度を身に付ける。
--------	---

題材名と指導目標	国語科の観点	指導方法	期間 時数
「返事をしよう」 ・教師から名前を呼ばれたり, 言葉を掛けられたりしたときに発声やジェスチャーで応じることができる。	聞く・話す	・教師と手を合わせる, 発声するなど段階に合わせて呼名に応じるようにする。 ・視線を合わせることの苦手が推測されることから, 教師が認知されてればアイコンタクトは要求しない。 ・手を合わせる, 発声など教師がモデリングすることで模倣させる。	通年
「これなあに」 ・教師が読み上げた名前に応じて絵カードや写真カードを選んだり指さしたりすることができる。	聞く・話す		
「絵本をみよう」 ・教師と一緒に絵本などを楽しむ。	読む		
「書いてみよう」 ・様々な筆記用具に親しむ。	書く		

○担任
担任名は執筆者を最初に記入してください。

○年間指導目標→詳細はP 6
個別の指導計画(教育課程全般)にある国語, 算数・数学の年間目標と同じにしてください。

○題材名と指導目標→詳細はP 8
題材名は実際に児童生徒に指導する際の題材名を記入してください。
指導目標は国語科, 算数・数学科の指導内容表を参考にして記入するようにしてください。

○観点→詳細はP 9
国語科は「聞く・話す, 読む, 書く」の中から, 算数・数学科は「数と計算, 量と測定, 図形・数量関係, 実務」の中から該当する観点を記入してください。両教科とも各観点からバランス良く指導内容を選択することを原則にします。児童生徒の実態により, 選択できなかった観点がある場合は, 記録の方に記載し, 引き継ぎの材料としてください。

○指導方法→詳細はP 10
児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして, 個に応じた指導方法を設定します。
目標を達成するために必要な配慮を具体的に記載するようにすると分かりやすくなります。

○書式
サーバーにある書式を基本としますが, 行数, 文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大きさで使用してください。記載量が多い場合, 2枚にわたることもあります。

○電子データの取り扱い
作成した電子データはサーバーの個人フォルダに保管し, 年度末に各学部のHDDに移動して引き継ぐようにします。

4) 自立活動

様式2-5-1 (例) 自立活動の課題設定シート

児童生徒名	〇〇〇〇	作成月日	平成〇年 〇月 〇日
重複する障害種	なし・ 肢体不自由・ 病弱・ 視覚・ 聴覚		
作1年次(学年)	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇		
成2年次(学年)	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇	修正	〇月 〇日
者3年次(学年)	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇	月日	〇月 〇日

1. 児童生徒の気になる行動(課題と思われるエピソード) → 目標設定の参考にする

①登校、下校時に玄関から出入りする事に抵抗がある。
 ②集団の授業や場に参加したり、長時間留まることが難しい。
 ③興味の対象がくるくる変わり、非常に衝動的である。
 ④行動範囲が広がり、高等部棟に行きたがる。
 ⑤大気のない時間帯に、小学部男子トイレに入ってきた。(〇年削除)
 ⑥日によって気分がわからず、一掃怒り出すと話を聞くことが難しい。
 ⑦衝動的に行動するときは制止が効きにくい。
 ⑧禁止等の言葉は怒りのきっかけになり、かえって意図が伝わらないことがある。
 ⑨言葉遊びで他人とのやりとりをするのが好きである。
 ⑩決まったパターン「ママに言っというて」等でのやりとりはできるが、それ以外についてやりとりは単語での会話を中心である。
 ⑪要求や気持ちを言葉で伝えることが増えてきているが、十分にはできない。
 ⑫物や人の名前を間違えて覚えているため、相手に伝わらないことがある。
 ⑬てんかんの薬の副作用で午前中に眠気が強く出る。
 ⑭自分を受け入れてくれる人と親しく接するが慣れない人への警戒心が高い。
 ⑮嫌なことがあった場面覚えていて、似たような状況に対して警戒心が高くなる。
 ⑯窓やドアを閉めたがる。(〇年追加)

2. 気になる行動の原因を推測 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする

①②③④の衝動性が高く、思いついたら自衛することが難しいからでは？
 ①②③④⑤⑥⑦⑧行動を止められたりすると、怒りやすい。感情の起伏が状況次第で激しく変わるのでは？
 ①②③④⑤⑥⑦慣れない人や以前の経験があった状況(場所や時間)になると警戒心が高くなるのでは？
 ①②③④⑤⑥⑦興味があるものや、ドアや窓を閉めたがるのはこだわりがあるからでは？(〇年削除, 〇年追加)
 ⑧⑨聞き覚えた言葉を正確に話すことが難しいのでは？
 ⑩てんかんの薬の副作用で午前中に眠気が強く出る。

3. 推測される障害による困難 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする

○衝動性が高く、活動への継続が難しくなる。
 ○怒りやすい。
 ○過去のいやな経験による警戒心が高く、持続して現れる。

4. 指導上参考になる事項(興味・関心、人のかかわり等) → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする

○気に入ったもの(毛布やミニカーなど)を持つことで安心して落ち着くことができる。
 ○自転車や袋飛ばしなどの外の遊びで気分転換できる。
 ○好きな行動をご褒美にすることで、教師が取り組ませたい課題に取り組むことがある。
 ○不安定になったときは、静かな環境を提供すれば落ち着きやすい。

様式2-5-2 (例) 個別の指導計画(自立活動)

〇学部〇年〇組	氏名	〇〇〇〇	担任	〇〇〇〇, 〇〇〇〇, 〇〇〇〇
重複する障害種	なし・	肢体不自由・	病弱・	視覚・ 聴覚

配慮事項 → 課題設定シートの障害による困難と指導上参考になる事項を踏まえて記載する

○活動予告をして見通しをもたせる。
 ○毛布やスケッチブックなど本人の気持ちが落ち着ける物を持たせると、活動に参加しやすくなる。
 ○不安定なときは、静かな環境(教室のカーテン内など)で休ませたり、好きな遊具(または遊び)で遊ばせたりすることで落ち着きやすくなる。
 ○嫌なことを無理強いすると、嫌な記憶として残り、次から指導に応じない可能性があるため、無理強いせずにそのときの本人の気持ちを受け止め、ゆっくり指導する。

年間指導目標	1. 落ち着いた学校生活を送ることができる。 2. 〇〇〇〇・・・
設定理由および指導仮説	1. 本生徒の課題設定シートでは、集団の授業や場に参加したり、長時間とどまることが難しい、興味の対象がくるくる変わり、非常に衝動的である。日によって気分がわからず、一掃怒り出すと話を聞くことが難しいなどの特徴が見られた。これらは主に衝動性が高く、自制が効かなかったり、短時間で感情が大きく起伏したりすることに起因すると考えられた。そこで障害による困難は衝動性が高く、活動への継続した参加が難しい、怒りやすい、過去のいやな経験による警戒心が高く、持続して現れるのではないかと推察した。 課題設定シートから集団や長時間での学習の場面に参加する困難や一度怒り出すと教師の話を聞いたり制止が効かなくなったりする困難が見られる。これらの困難が解決することで集団生活をより円滑に送ることができると考え、指導目標を落ち着いた学校生活を送ることができるに設定した。 障害による困難や、配慮事項にある活動に参加しやすさや状況作りや、本人の気持ちを受け止める姿勢などに留意し、性急に指導しないことで落ち着いた状況が維持できると考え、 2. 〇〇〇〇・・・

区分と項目の番号	指導方法 → 配慮事項を踏まえた内容にする	指導の形態期間
年間指導目標1	○自分の欲求を通そうとしたり、不満を解消しようとしたときに感情が高ぶるパニックになることが多い。自己統制の難しさや急激に感情が高ぶる障害の特性もある。また何度か同様の経験を重ねるとそれがパターン化されてくる傾向も見受けられる。 昨年度の指導から、パニック後の気持ちの切り替えが早まるような指導も大切であるが、パニックを回避していく方策も必要であるという考えに立ち、場面場面で受容的な態度で気持ちの切り替えができるようにタイムアウトの時間を設けつつ、落ち着いたらできたことを褒め、前向きに生活に取り組める指導を継続していく。 また学習については事前の予告、興味ある活動や物の提示、一度予告してから少し時間をおく。	学校生活全般 1年(2)
人間関係の形成: 3-(1)(2)		1年(2)
コミュニケーション: 6-(1)		1年(2)

新規に作成する学年は原則として小1, 小4, 中1, 高1です。他の学年でも転入生等があった場合は、新規に作成をします。

課題設定シートは教務部からの計画に基づき、学年や学級の教師の話し合いを経て作成してください。他の学年でも実態に変更があった場合は見直しをお願いします。

○作成月日
新規作成の話し合いが行われた日付を記入します。

○重複する障害種
重複障害者の場合は該当する障害種全てに○を付けます。それぞれの障害に関して指導目標を設定するのが原則です。単一障害者の場合はなしに○を付けてください。

○作成者
1年次は話し合いに参加した先生方を記入します。
2, 3年次は担任名を全員記入します。

○修正月日
2, 3年次は修正を加えた日を記入します。

○児童生徒の気になる行動(課題となるエピソード)
話し合いの前に担当の先生が記入しておきます。

○気になる行動の原因を推測
気になる行動の原因を話し合いの中で推測して記入します。

○推測される障害による困難
気になる行動の原因を話し合いの中でまとめて、障害による困難を推測します。

○指導上参考になる事項
得意なことや興味・関心など指導の切り口となることを記入します。担当の先生が話し合いの前に記入します。
→詳細はP12, 13を参照してください。

○電子データの取り扱い
作成した電子データはサーバーの個人フォルダに保管し、年度末に各学部のHDDに移動して引き継ぐようにします。様式2-5-2も同様です。

○担任
担任名は執筆者を筆頭に全員記入してください。

○重複する障害種
単一障害者の場合は「なし」に○を、重複障害者の場合は該当する障害種全てを○で囲んでください。原則としてそれぞれの障害に応じた自立活動の目標が必要になります。

○配慮事項の記載
課題設定シートの障害による困難と指導上参考になる事項を踏まえた学校生活全般の配慮事項を記載します。→詳細はP13

○年間指導目標
課題設定シートの児童生徒の気になる行動を参考に、年間指導目標を設定します。
→詳細はP13

○設定理由および指導仮説
どうして年間指導目標が設定されたのか、その理由と、どのような方針で指導していくのか記載します。
→基本的な文例はP14~15

○指導方法
配慮事項なども考慮に入れて、具体的な指導方法を記載します。
→詳細はP15

○指導の形態 期間
特に時間を設けて指導する場合にはその指導の形態を記入します。年間を通して指導する場合には通年と記入します。

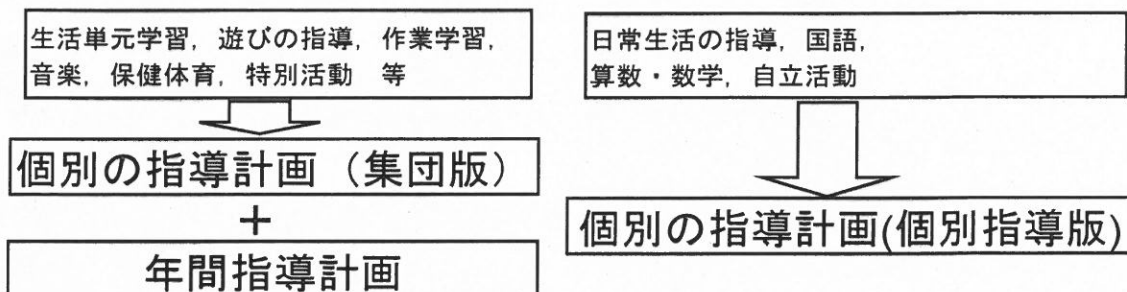
○書式
サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。
10.5pt~9ptの大きさで使用してください。

3. 個別の指導計画の作成方法（集団版）

1) 個別の指導計画の構成

以前C票と呼んでいたものです。主に指導形態が集団を対象としている指導の形態でまとめられたものです。

従って生活単元学習、遊びの指導や作業学習、音楽、保健体育、特別活動等については年間指導計画とセットにして個別の指導計画が成り立っていることを理解しておく必要があります。



2) 学習場面

対象となる児童生徒が選択している指導の形態に加え、特別活動、道徳の領域、中学部、高等部の生徒には総合的な学習の時間（履修者のみ）も加わります。取り扱わない指導の形態は斜線をひいてください。

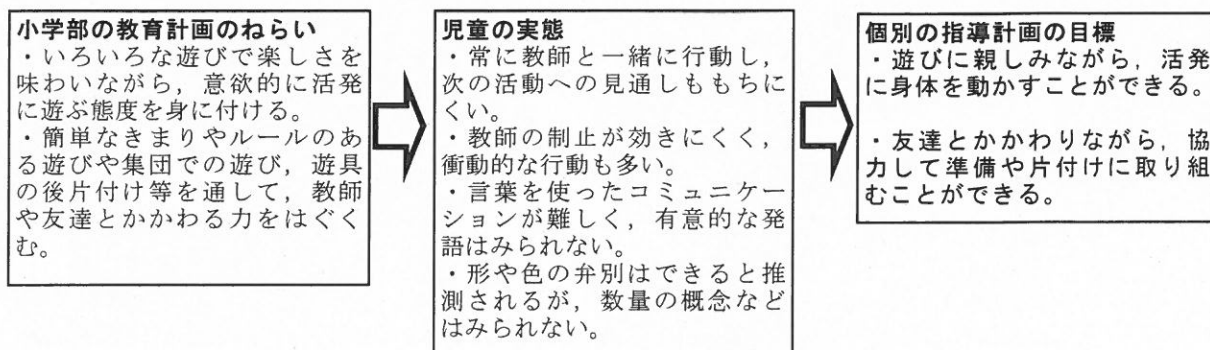
3) 年間指導目標の設定の方法

教育計画（6-13, 6-14）にある各指導の形態のねらいを基に設定します。

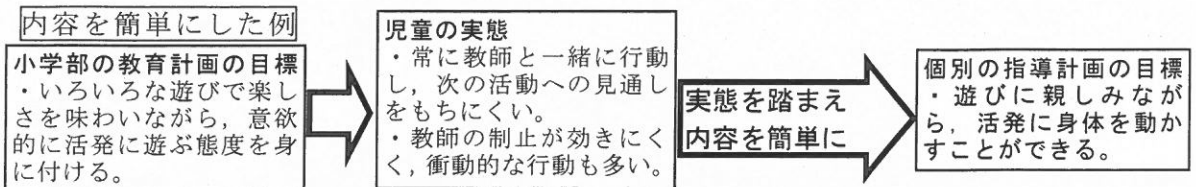
各指導の形態にある目標に児童生徒の実態を加味し、個別化、構造化された目標を考えます。

例 遊びの指導 : 教育計画の各指導の形態のねらい (6-13, 6-14)

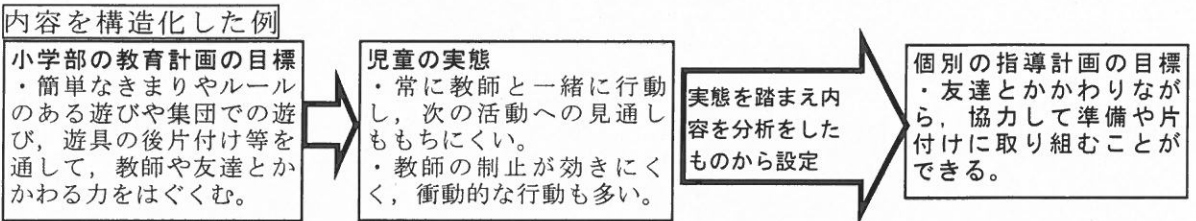
	基本的な考え方	指導目標	小学部のねらい
遊びの指導	遊びの指導は、遊びを学習の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していく指導の形態である。 指導にあたっては、児童の興味・関心を広げ、深めるような楽しい環境を構成していく。 また、児童の実態や遊びの内容・展開に応じた支援の仕方、グループ編成等を工夫し、遊びがより発展するようにする。	・遊びの楽しさを味わわせ、意欲的な活動を促す。 ・友達と教師とのかかわりを促す。	・いろいろな遊びで楽しさを味わいながら、意欲的で活発に遊ぶ態度を身に付ける。 ・簡単なきまりやルールのある遊びや集団での遊び、遊具の後片付け等を通して、教師や友達とのかかわる力をはぐくむ。



目標の個別化、構造化とは児童生徒の実態に応じて目標の内容を簡単にしたり、分析された内容をさします。



「次の活動への見通しがもちにくい」「衝動的な行動も多い」という実態から、いろいろな遊びで楽しさを味わうことは、まだ難しいと考え、内容を簡単にして遊びに親しむとした。



簡単なきまりのある遊び、集団での遊び、道具の後片付け等の指導場面を通じて教師や友達とかかわる力を育む指導になっている。教師の制止が効かず、衝動的な行動が多いという実態から、きまりに沿った活動や集団行動が難しいことが予想される。そこで特に準備や片付けの場面で友達とのかかわる場面を設けることにした。

4) 指導内容・方法の設定

個別の指導計画では個々の目標を達成するために、個別化された指導内容、指導方法を設定していく必要があります。その際、児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にすることで、個に応じた指導方法を設定できると考えられます。

例

児童の実態
・常に教師と一緒に行動し、次の活動への見通しももちにくい。
・教師の制止が効きにくく、衝動的な行動も多い。
・言葉を使ったコミュニケーションが難しく、有意的な発語はみられない。
・形や色の弁別はできると推測されるが、数量の概念などはみられない。

実態から推測される障害による困難

・環境の変化への対応が苦手で、教師と一緒に行動することで不安の軽減化を図っている。
・想像力の苦手さから次の活動への見通しが立ちにくく、対人関係も相手の立場をくみ取れず一方的になってしまう。

推測される障害による困難を軽減化するための指導の工夫（自立活動の指導）

・不安傾向が高いことから、混乱を引き起こす原因を調査し、教師が環境の調整役となり、できるだけ混乱を回避できるように配慮する。
・活動への見通しが立ちやすいように、友達や活動の様子を見せたり、写真やVTRなどを用いて具体的に活動の内容が分かるように工夫する。
・言葉かけはできるだけ簡単で分かりやすく短いものにする。想像力の苦手さからも「～しない」「ダメ」などの禁止よりも、何をどうすれば良いのか具体的に説明する。
・言葉かけと一緒に指さしやジェスチャーなども交え、理解の一助とする。

様式 2 - 1

個別の指導計画（集団版）

小学部○年○組	氏名	△△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●●
---------	----	-------	----	--------------------

学習場面	年間指導目標	指導内容・方法
遊びの指導	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに親しみながら、活発に身体を動かすことができる。 ・友達と関わりながら、協力して準備や片付けに取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友達と競争する場面を取り入れたり、しゃがむ、立つなど大きく身体を動かす遊びを取り入れたりする。 ・特に準備や片付けで友達と一緒に物を運んだり、教具を広げたりする活動を設ける。

4. 個別の指導計画の作成方法（個別指導版）

個人やグループなど、個別指導に近い指導の形態については個別の指導計画（個別指導版）を作成します。日常生活の指導、国語、算数・数学、自立活動について作成します。このうち、日常生活の指導と自立活動については全児童生徒分、国語と算数・数学については選択している児童生徒分のみ作成します。

1) 日常生活の指導

(1) 指導項目

様式では衣服の着脱、身の回りの整理、食事、排せつ、清潔、朝や帰りの活動、挨拶、係の仕事等の指導項目がありますが、清掃など項目を増やすことも可能です。身辺処理が自立していたり、実態が重度、指導が難しい項目などは指導目標、指導内容・方法の欄に斜線をひいてください。

2) 国語科、算数・数学科

(1) 題材名と指導目標

題材名は実際に授業で用いる題材名を記入してください。児童生徒にとって何をするのか分かりやすい名前を付けるのが原則です。

指導目標は指導内容表をもとに児童生徒の実態に応じた指導内容を選択し、ねらいとする行動が具体的に分かるように設定すると分かりやすいと思います。

例

児童の実態

- ・常に教師と一緒に行動し、次の活動への見通しがもちにくい。
- ・着替えは自分から進んで行おうとしたり、教師に支援を求めようとする様子がない。
- ・食事はスプーンやフォークを使うが、食べにくいと手づかみになる。
- ・小便是トイレに行ってしまうが、大便是紙パンツの中にしてしまう。
- ・教師の制止が効きにくく、衝動的な行動も多い。
- ・言葉を使ったコミュニケーションが難しく、有意的な発語はみられない。
- ・形や色の弁別はできると推測されるが、数量の概念などはよく形成されていない。

実態から指導内容表の段階に見当をつける

- ・児童の実態から1～2段階に相当すると推測される。

実態に応じて指導内容を選択する

国語科 1, 2, 3段階		聞く・話す	
観点	内容	指導内容	指導内容
1段階	(1)教師の話を読み、絵本などを読んでもらったりする。	○教師から名前を呼ばれたり、言葉を掛けられたときなどに応じる。	(2)教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。
		○写真や絵画などの中のもの名前などを読んでもらう。	
		○絵本のほか、紙芝居やまんがなどを読んでもらう。	
		○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して話し手を見る。	○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して音声で模倣する。
		○教師や身近な大人や兄弟、友達からの話し掛けに対して返事	

指導内容と児童の実態を加味して指導目標を設定する

児童の実態から言葉による返答は難しいと考えた。他者とのコミュニケーションをとる初歩的な段階として、非言語的な手段であっても教師の働き掛けに応じさせたいと考えた。非言語的な手段とは発声や教師と手を合わせるなどのジェスチャー等も含めていきたい。

そこで指導目標を「教師から名前を呼ばれたり、言葉を掛けられたりしたときに発声やジェスチャーで応じることができる」と考えた。

(2) 観点

国語科は「聞く・話す、読む、書く」の中から、算数・数学科は「数と計算、量と測定、図形・数量関係、実務」の中から該当する観点を記入してください。

両教科とも各観点からバランス良く指導内容を選択することを原則にします。これは学習指導要領で示されている各教科の内容は全ての児童生徒で取り扱われることが原則にされているからです。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領

第1章 総則

第2節 教育課程の編成

第2 内容等の取扱いに関する共通的事項

6. 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部においては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育及び職業・家庭の各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、すべての生徒に履修させるものとする。また、外国語科については、学校や生徒の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。
7. 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科（小学部においては各教科の各段階。以下この項において同じ。）に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。また、各教科、道徳、特別活動及び自立活動の全部又は一部を合わせて指導を行う場合には、各教科、道徳、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。

しかしながら児童生徒の実態により各教科の内容を取り扱うことが困難な場合が多くあります。平成21年特別支援学校学習指導要領解説総則等編のP214にある「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」では次のように記されています。

今回の改訂では、一人一人の実態に応じた学習を行うことを重視する観点から…（中略）…「障害の状態により特に必要がある場合」について示したものであり、重複障害者に限定した教育課程の取り扱いではないことに留意する必要がある。

また同P217では「重複障害者」の規定を以下のように示しています。

重複障害者とは、当該学校に就学することになった障害以外に他の障害を併せ有する児童生徒であり、…（中略）…しかし教育課程を編成する上で、以下の規定を適用するに当たっては、指導上の必要性から、必ずしもこれに限定される必要はなく、言語障害、自閉症、情緒障害等を併せ有する場合も含めて考えてもよい。

つまり単一障害の場合でも、障害の状態により特に学習が困難な児童生徒については教育課程上、重複障害者の扱いができるということになります。

その上で同P219では以下の取り扱いについて示されています。

3. 重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳、外国語活動若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主とした指導を行うことができるものとする。

つまり単一障害の児童生徒でも、障害の状態により特に学習が困難な児童生徒については各教科の目標や内容の一部、または全てを自立活動を主とした指導に替えることができるようになります。ここで大切なのは教師の指導上の必要性や教育課程編成上の必要性から自立活動に替えるわけではなく、あくまで児童生徒一人一人の実態に応じた学習を行うための取り扱いになります。従ってこれらは個別に取り扱いを検討していくこととなります。

児童生徒の実態により、自立活動の指導に替えて取り扱わなかった観点がある場合は、記録の方に記載し、引き継ぎの材料としてください。

(3) 指導方法

目標を達成させるための指導の方針や手立てを簡潔に記入します。児童生徒の個々の障害の特性や自立活動の指導などを十分参考にして、個に応じた指導方法を設定します。目標を達成するために必要な配慮を具体的に記載するようにすると分かりやすくなります。

例

自立活動の指導

- ・不安傾向が高いことから、混乱を引き起こす原因を調査し、教師が環境の調整役となり、できるだけ混乱を回避できるように配慮する。
- ・活動への見通しが立ちやすいように、友達の活動の様子を見せたり、写真やVTRなどを用いて具体的に活動の内容が分かるように工夫する。
- ・言葉かけはできるだけ簡単で分かりやすく短いものにする。想像力の苦手さからも「～しない」「ダメ」などの禁止よりも、何をどうすれば良いのか具体的に説明する。
- ・言葉かけと一緒に指さしやジェスチャーなども交え、理解の一助とする。

指導方法

- ・教師と手を合わせる、発声するなど段階に合わせて呼名に応じるようにする。
- ・視線を合わせることの苦手が推測されることから、教師が認知されていればアイコンタクトは要求しない。
- ・手を合わせる、発声など教師がモデリングすることで模倣させる。

3) 自立活動

(1) 自立活動の意義と指導の基本（特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編から抜粋）

① 自立活動とは（特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 P5）

小・中学校等の教育は、幼児児童生徒の生活年齢に即して系統的・段階的に進められている。そして、その教育の内容は、幼児児童生徒の発達の段階等に即して選定されたものが配列されており、それらを順に教育をすることにより人間として調和のとれた育成が期待されている。

しかし、障害のある幼児児童生徒の場合は、その障害によって、日常生活や学習場面において様々なつまずきや困難が生じることから、小・中学校等の幼児児童生徒と同じように心身の発達の段階等を考慮して教育するだけでは十分とは言えない。そこで、個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となる。このため、特別支援学校においては、小・中学校等と同様の各教科等のほかに、特に「自立活動」の領域を設定し、その指導を行うことによって、幼児児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指しているのである。

② 自立活動の指導の特色（特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編 P7）

自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。そのため、自立活動の指導に当たっては、個々の幼児児童生徒の実態を的確に把握し、個別に指導の目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画が作成されている。

個別の指導計画に基づく自立活動の指導は、個別指導の形態で行われることが多いが、指導の目標を達成する上で効果的である場合には、幼児児童生徒の集団を構成して指導することも考えられる。しかし、自立活動の指導計画は個別に作成されることが基本であり、最初から集団で指導することを前提とするものではない点に十分留意することが重要である。

(2) 本校の自立活動のねらい

学校の教育活動全体を通して、児童生徒が障害による学習上又は、生活上の困難を主体的に改善、克服するために必要とする知識、技能、態度及び習慣を養い心身の調和的発達の基盤を培うことにより、自立を目指す。

(3) 本校の自立活動の考え方

自立活動は障害による生活上、学習上の困難を克服・改善する指導です。

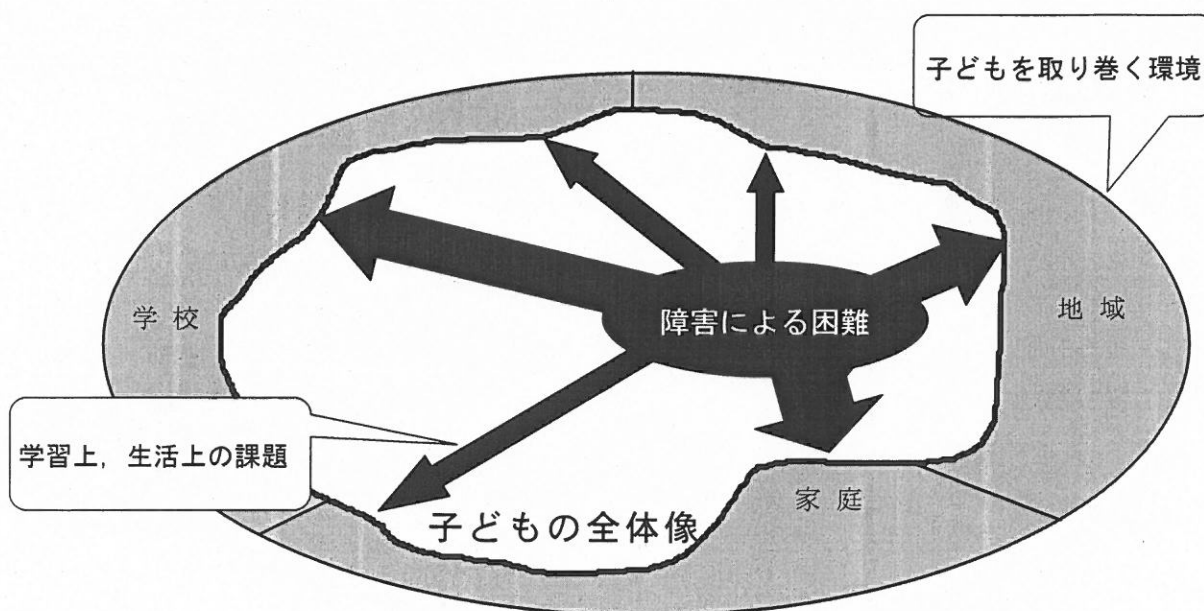
日常生活や学習の中での困難を把握し、スムーズに生活や学習に取り組める姿をイメージしながら目標を設定して指導します。しかし実際には口頭でやりなさいと指導しても簡単にできるものではありません。なぜできないのかという原因を推測し、その原因に応じた指導方法を考える必要があるからです。

学習上の困難、生活上の困難を解決するためには、その原因となる障害による困難を推測していくことが重要です。

障害による困難は

- ①児童生徒が抱えている障害の特性とも言えるもので、個々によって異なります。
- ②長期にわたって指導や配慮を必要とする場合が多く、本人の努力で解決することが難しい場合も多くあります。
- ③学習上の困難、生活上の困難のほとんどは、障害による困難が共通した原因となって引き起こされていることが多くあります。
- ④生育環境や誤学習により2次的な障害がある場合、障害の特性に対してのみならず、幅広い配慮や指導が必要であり、これらも自立活動の指導に含まれると考えます。

これら障害による困難に基づいて、指導内容の選択や指導方法が設定されていきます。障害による困難が長期にわたって指導や配慮を必要とすることからも、指導内容の選択や指導方法の設定でもPDCAを繰り返しながら一貫性ある指導ができるようにしていくことが重要です。



(4) 自立活動の個別の指導計画の作成にあたって

①課題設定シートについて

自立活動は個別に指導の目標や具体的な指導内容を定めるため、児童生徒の実態を的確に把握することが非常に大切となります。特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編では次のような実態把握の方法が例示されています。

㊦個々の実態に関する情報を自立活動の区分に即して整理する方法

㊧個々の実態に関する情報を障害による学習上又は生活上の困難から整理する方法

いずれも観察等による情報を整理していく方法が提示されています。

本校では②の方法を参考に、TTで話し合いながら組織的に実態把握に取り組み、学習上又は生活上の課題やその背景を推測していくようにしました。組織的に取り組むことで、客観性や一貫性が高まることが期待できます。

○推測される障害による困難は学年が変わっても大きく変化する性質のものではありません。従って自立活動の個別の指導計画を作成するための実態把握も3年に1回とします。小学部では1, 4年生, 中学部では1年生, 高等部も1年生を対象学年とします。ただし他の学年であっても転入生等があった場合は, 新規に作成することになりますので, ご留意ください。

○作成手順の詳細はP12を参照してください。

○対象学年は小学部1, 4年, 中学部1年, 高等部1年です。対象学年以外でも転入生等があった場合は新規作成を行ってください。

○教務部から6月に約5日間の日程とグループの人数調整が提示されますので, 計画的に作業を進めます。

○自立活動の課題設定シートをもとに自立活動の個別の指導計画を作成します。

②課題設定シートの修正について

○対象学年以外で, 自立活動の課題設定シートの内容に修正を加える場合, 次のようお願いします。削除する項目については取り消し線(⊖⊖⊖)を引き, 文末に削除した年度と「削除」を括弧書きで記載してください(平成○年度 削除)。付け足しするときは, 文末に付け足した年度と「追加」を括弧書きで記載してください(平成○年度 追加)。

※実態の変容を見る際の参考になりますので, 現行の項目の文言に修正を加えるのではなく, 追加や削除で対応してください。

③自立活動の個別の指導計画の作成について

○全学年で毎年作成されます。

○詳細はP13~16を参照してください。

○作成の日程は他の指導の形態と同じです。

○提出やファイルに綴じるときには, 個別の指導計画とともに, 自立活動の課題設定シートも一緒に綴じて, 提出して下さるようお願いします。

※自立活動の課題設定シートは対象児童生徒の課題と思われる事象が多く含まれています。を保護者に開示する際には教務部と相談の上, 開示するようお願いします。

④自立活動の個別の指導計画の回覧について

○自立活動の個別の指導計画の作成では, 他の指導の形態と違い, 指導内容表からの選択などではなく, 児童生徒の実態から障害による困難を把握して, 指導目標を考えなければなりません。そこで自立活動の個別の指導計画に関しては, 回覧

時に従来の学部主事に加え、地域支援Co、校内支援チーフ、研究主任にも1学部ずつ担当して回覧し、参考意見をいただくシステムになります。

(5) 課題設定シートの作成の手順

① 課題設定シート作成の計画を立案する。

○ 学年を中心としたTTとの話し合いで児童生徒の自立活動の課題設定シートの作成を行います。教務部から日程や話し合いのグループ編成が決まり次第、グループの中で話し合いの計画を立案してください。

○ 話し合いの教師の目安は3～5人程度だと効率性も良いようです。学級によっては担任が1人、2人のときもあります。その際は主事や副主事が入ったり、TTの人数が多いクラスから支援を求めたりして調整を行います。(教務部：教務主任、学部主事で調整)

○ 教務部から自立活動の課題設定シート作成のための日程が5日間提案されますので、それに応じて対象児童生徒、話し合いの司会の先生、記録の先生の割り当てを決めてください。なお、提案された5日間以外でも学年や学級の都合に応じて空いている日を積極的に活用していただくと効率的に進めることができると思われます。

様式2-5-1 (例) 自立活動の課題設定シート

児童生徒名	○○○○	作成月日	平成○年 ○月 ○日
重複する障害種	なし・ 肢体不自由 ・ 病弱 ・ 視覚 ・ 聴覚		
作成者	1年次(学年) ○○○○, ○○○○, ○○○○		
	2年次(学年) ○○○○, ○○○○, ○○○○	修正	□月 □日
	3年次(学年) ○○○○, ○○○○, ○○○○	月日	□月 □日

<p>1. 児童生徒の気になる行動(課題と思われるエピソード) → 目標設定の参考にする</p> <p>①登校、下校時に玄関から出入りに抵抗がある。 ②集団の授業や場に参加したり、長時間留まることが難しい。 ③興味の対象がくるくる変わり、非常に衝動的である。 ④行動範囲が広がり、高等部棟に行きたがる。 ⑤人気のない時間帯に、小学部男子トイレに入りたがる。(□年削除) ⑥日によって気分がむらがあり、一端怒り出すと話を聞くことが難しい。 ⑦衝動的に行動するときは制止が効きにくい。 ⑧禁止等の言葉は怒りのきっかけになり、かえって意図が伝わらないことがある。 ⑨言葉遊びで他人とのやりとりをするのが好きである。 ⑩決まったパターン「ママに言っというて」等でのやりとりはできるが、それ以外についてのやりとりは単語での会話が中心である。 ⑪要求や気持ちを言葉で伝えることが増えてきているが、十分にはできない。 ⑫物や人の名前を間違えて覚えているため、相手に伝わらないことがある。 ⑬てんかんの薬の副作用で午前中に眠気が強く出る。 ⑭自分を受け入れてくれる人とは親しく接するが慣れない人への警戒心が高い。 ⑮嫌なことがあった場面を覚えていて、似たような状況に対して警戒心が高くなる。 ⑯窓やドアを閉めたがる。(□年追加)</p>
<p>2. 気になる行動の原因を推測 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする</p> <p>②③④⑦衝動性が高く、思いついたら自制することが難しいからでは？ ①②③⑥⑦⑧⑨行動を止められたりすると、怒りやすい。感情の起伏が状況次第で激しく変わるのでは？ ①②⑥⑦⑧⑨⑩慣れない人や以前のやな経験があった状況(場所や時間)になると警戒心が高くなるのでは？ ①④⑤⑥⑩⑪⑫⑬⑭⑮興味があるものや、ドアや窓を閉めたがるのはこだわりがあるからでは？(□年削除, □年追加) ①④⑤⑥⑩⑪⑫⑬⑭⑮聞き覚えた言葉を正確に話すことが難しいのでは？ ⑬てんかんの薬の副作用で午前中に眠気が強く出る。</p>
<p>3. 推測される障害による困難 → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする</p> <p>○衝動性が高く、活動への継続した参加が難しい。 ○怒りやすい。 ○過去のいやな経験による警戒心が高く、持続して現れる。</p>
<p>4. 指導上参考になる事項(興味・関心、人とのかわり等) → 指導方針や指導方法を考える際の参考にする</p> <p>○気に入ったもの(毛布やミニカーなど)を持つことで安心して落ち着くことができる。 ○自転車や袋飛ばしなどの外の遊びで気分転換できる。 ○好きな行動をご褒美にすることで、教師が取り組ませたい課題に取り組むことがある。 ○不安定になったときは、静かな環境を提供すれば落ち着きやすい。</p>

② 話し合いの前にやっておくこと

㉞ 気になる行動等の書き出し

対象生徒の担当は児童生徒の気になる行動(課題と思われるエピソード)を課題設定シートに書き出す。10個程度を目安に箇条書きで書き出す。それぞれの行動に通し番号を振っておく。また指導上参考になる事項には興味・関心、得意なところなどを書き出す。重複障害者の場合、それぞれの障害種に応じた内容が網羅されているかチェックしてください。

㉟ 司会と記録の確認

司会はタイムキーパーも兼ねる。記録したものは個別の指導計画の一部となる。司会も記録も話し合いには積極的に参加するようにする。

③ 話し合い当日(一人分の手順)

㉞ 担任教師が集まって協議する。

㉟ 担当は課題設定シートを配布し、メンバーで読み込む。

㊱ 司会は気になる行動について付け加えがあるかどうかメンバーから確認する。→㉞, ㉞で合わせて5分程度
 ㊲ メンバーそれぞれで気になる行動の原因を考える。その際、どの行動

の原因となっているのか、対応した通し番号を振っておく。司会はそれらを集約する。→10分程度

㊦ メンバーの意見を基に気になる行動の原因を集約し、推測される障害による困難をまとめる。→5分程度

㊧ 指導の切り口として参考にする興味・関心など付け加えがあるかどうか確認する。→5分程度

④ 話し合い後日

記録はワークシートをデータ化し、印刷物を担当に、データをサーバーに保管する。

(6) 個別の指導計画の作成

① 重複する障害種

重複障害者の場合は重複する障害種に○を付けてください。自立活動の指導は原則としてそれぞれの障害種に対応した目標の設定が必要になります。

② 配慮事項

障害による困難は気になる行動の原因であり、その生徒が抱えている特性ともいえます。これらは年間指導目標にかかわる指導場面のみならず、学校生活の様々な場面で困難を生じさせています。そこで少しでも学校生活をスムーズに送るようになるために、学校生活全般における、障害による困難への配慮事項をこの欄にまとめます。

配慮事項には障害による困難をあらかじめ回避したり、教師が手伝ったりなどの他に好子を生かして注意や興味を引きつけたりすることもあります。配慮事項をまとめる際には課題設定シートにある障害による困難の他に指導上参考になる事項なども合わせて考えるようにしましょう。

様式2-5-2

(例) 個別の指導計画 (自立活動)

○学部○年○組	氏名	○○○○	担任	○○○○, ○○○○, ○○○○
重複する障害種	なし・ 肢体不自由・ 病弱・ 視覚・ 聴覚			

配慮事項	→ 課題設定シートの障害による困難と指導上参考になる事項を踏まえて記載する
○活動予告をして見直しをもたせる。	
○毛布やスケッチブックなど本人の気持ちが悪く着ける物を持たせると、活動に参加しやすくなる。	
○不安定なときは、静かな環境(教員のカーテン内など)で休ませたり、好きな遊具(または遊び)で遊ばせたりすることで落ち着きやすくなる。	
○嫌なことを無理強いすると、嫌な記憶として残り、次から指導に応じない可能性があるのので、無理強いをせずにそのときの本人の気持ちを受け止め、ゆっくり指導する。	

年間指導目標	1. 落ち着いた学校生活を送ることができる。 2. ○○○○・・・
設定理由および指導仮説	1. 本生徒の課題設定シートでは、集団の授業や場に参加したり、長時間とどまったりすることが難しい、興味の対象がくるくる変わり、非常に衝動的である、日によって気分がむらがあり、一端怒り出すと話を聞くことが難しいなどの特徴が見られた。これらは主に衝動性が高く、自制が効かなかつたり、短時間で感情が大きく起伏したりすることに起因すると考えられた。そこで障害による困難は衝動性が高く、活動への継続した参加が難しい、怒りやすい、過去のいやな経験による警戒心が高く、持続して現れるのではないかと推察した。 課題設定シートから集団や長時間での学習の場面に参加する困難や一度怒り出すと教師の話を聞いて制止が効かなかつたりする困難が見られる。これらの困難さが解決することで集団生活をより円滑に送ることができると考え、指導目標を落ち着いた学校生活を送ることができると設定した。 障害による困難や、配慮事項にある活動に参加しやす状況作りや、本人の気持ちを受け止める姿勢などに留意し、性急に指導しないことで落ち着いた状況が維持できるであろうと考える。 2. ○○○○・・・

③ 年間指導目標

自立活動は障害による学習上又は生活上の困難の改善、克服を目指します。基本的には気になる行動を集約したものを選択したり、児童生徒の気になる行動の中から緊急性や重要性の高いものを選択したりします。次にその課題が解決された後のイメージを基にして指導目標を考えます。望ましくない行動を消去するのではなく、望ましい行動や心理の形成していくことが指導目標になります。

目標は期限内で到達できることを見通して設定します。しかし気になる行動の中には、1年で目標を達成することが難しいときもあります。そのような場合にはスモールステップ化して1年で達成できそうな内容を設定してください。

区分と項目の番号	指導方法 → 配慮事項を踏まえた内容にする	指導の形態 期間
年間指導目標1 心理的な安定: 2 - (2) 人間関係の形成: 3- (1) (2) コミュニケーション: 6- (1)	○自分の欲求を通そうとしたり、不満を解消しようとしたときに感情が高ぶりパニックになることが多い、自己統制の難しさや急激に感情が高ぶる障害の特性もある。また何らか同様の経験を重ねるとそれがパターン化されてくる傾向も見受けられる。 昨年度からの指導から、パニック後の気持ちの切り替えが早まるような指導も大切であるが、パニックを回避していく方策も必要であるという考えに立ち、場面場面で受容的な態度で気持ちの切り替えができるようにタイムアウトの時間を設けつつ、落ち着いた状態でできたことを褒め、前向きに生活に取り組める指導を継続していく。 また学習については事前の予告、興味ある活動や物の提示、一度予告してから少し時間をおく。	学校生活全般 通年

④ 設定理由および指導仮説

年間指導目標は気になる行動(課題)から望ましい行動(目標)や心理の形成に変えていくので、その経緯や考えを設定理由として記載することになります。また指導仮説はどのような方針で指導すれば目標が達成できると考えるかを記載してください。

基本的な書き方のパターンは次の通りです。

本生徒（児童）の課題設定シートでは～のような特徴が見られた。これらは主に～に起因するものと考えられた。そこで障害による困難は～ではないかと推察された。

課題設定シートから主に～の場面で～のような困難さが見られる。これらの課題が解決することで～のようになるであろうと考え、指導目標を～に設定した。

障害による困難や、配慮事項にある～や～などに留意し、～のように指導することで、～のようになるだろうと考える。

⑤区分と項目の番号

指導目標を達成するために、学習指導要領で定められた自立活動の内容の中から必要な区分・項目を選定します。各教科の場合、全ての内容を指導するのが大きな原則となりますが、自立活動はあくまで児童生徒の実態に応じて必要な内容のみを指導します。

目標を達成するためにはどのような区分・項目が必要になるのか、障害による困難との因果関係等も踏まえ、様々な方向から考えて選定することが大切です。

実際に個別の指導計画に記載する際には紙面の広さの都合もありますので、区分までは内容を明記し、項目は番号で書くようにお願いします。

⑥指導方法

指導方法は目標を達成するためにどのようにすればよいのか具体的に書きます。配慮事項を踏まえ、児童生徒にとって心身共に過度な負担とならないようにすることが大切です。

配慮事項と指導方法は必ず関連させるわけではありませんが、一貫した指導の根拠になるので、十分検討することをおすすめします。また指導上参考になる事項は指導の切り口を示唆してくれるものです。いきなり苦手なことをさせるのではなく、得意なことや興味・関心を生かして指導を始め、少しずつ広げていくと児童生徒の抵抗感も軽減できると考えます。

⑦指導の形態 期間

基本的に自立活動は学校生活全般を通じて指導されるものです。ですから学校生活全般でもいいのですが、例のように、特に指導の機会を設けている場合には、指導の形態を明らかにします。期間は目標が達成できるであろうと思われる期間を記入します。

IV 個別の指導計画の評価について

1) 集団版

様式 3-1

指導の記録 (1学期)

中学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●
-----------	----	------	----	-------------------

学習場面	学習の様子と評価	今後の課題と手だて
生活単元学習	・「お楽しみ会をしよう」では自分がやってみたい活動としてダンスをあげることができた。皆の賛同を得て活動の中に組み入れた。自分の希望した活動が組み入れられたことで、係活動など積極的に取り組む様子が見られた。ダンスはいつ?と期待感を表すことも多く、楽しく活動に取り組むことができた。	・失敗や困難を予期させる活動には消極的になる様子が見られる。 ・本人の意思を確認する場を増やしつつ、苦手そうな活動でも教師や級友と一緒に取り組むことで安心できることを説明していく。
作業学習	・学習集団の実能からにたたらや手びねりでの成型が	・成就感を思わせる発言や表情の
<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記入してください。</p> <p>○学習の様子と評価 目標に対する教師の手だて、児童生徒の様子、結果が分かるように記入します。楽しい、うれしいなどの児童生徒の心情の見取りでは表情や発言、仕草など見取りとなる根拠もあると分かりやすくなります。</p> <p>○今後の課題と手だて 指導中に生じた課題、目標に迫るための次のステップなど記載し、その解決のための手だてを記入します。</p> <p>○書式 サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大きさに使用してください。記載量が多い場合、2枚にわたることもあります。</p>		

2) 個別指導版 (日常生活の指導)

様式 3-1②

指導の記録 (日常生活の指導) 【 1学期 】

○学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●
-----------	----	------	----	-------------------

指導項目	指導目標	学習の様子と評価	今後の課題と手立て
衣服の着脱	・衣服の裏表、前後に気をつけながら着脱をする。	・衣服の模様が似ているときには自分でこれでいいのか聞くときが多かったが、洋服のタグに注意させることで自分で判断できることが増えてき	・教師に聞く機会が減ってきているので、指導を継続していく。
<p>○担任 担任名は執筆者を最初に記入してください。</p> <p>○学習の様子と評価 目標に対する教師の手だて、児童生徒の様子、結果が分かるように記入します。楽しい、うれしいなどの児童生徒の心情の見取りでは表情や発言、仕草など見取りとなる根拠もあると分かりやすくなります。</p> <p>○今後の課題と手だて 指導中に生じた課題、目標に迫るための次のステップなど記載し、その解決のための手だてを記入します。</p> <p>○書式 サーバーにある書式を基本としますが、行数、文字数の多少の増減は構いません。書体は明朝体を基本に使用してください。10.5pt~9ptの大きさに使用してください。記載量が多い場合、2枚にわたることもあります。</p>			

3) 個別指導版 (国語・数学)

様式3-3②

指導の記録 (国語) 【 1学期 】

○学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●
-----------	----	------	----	-------------------

題材名と指導目標	国語科の観点	指学習の様子と評価	今後の課題と手だて
名前を読もう ・自分の名前や身近なものの名前の平仮名を拾い読みする。	読む	・音節の構成が分からないため、音と文字の一致が難しい。文字は線書きだと認知が難しいようであった。表にイラスト、裏にイラストの頭文字が平仮名で印刷されカードを用いて指導した。数枚のカードを並べ、イラストの名前を言わせてからカードを裏返し、イラストの名前と頭文字を話して、該当するカードを選ばせるようにした。頭文字の音や文字の形が認知できないため、正答は少ない。音節の構成の理解をまず優先させた方がよいかと考える。	・一文字で一音を理解できるように、フラッシュカードなどを活用して練習する。
これなあに ・具体物や絵カード等と単語や文字カードのマッチングにより人やものの名前は文字で表せることを知る。	書く	・音節の構成を理解したり、文字と音節の対応が困難であるため、記号として文字を認知することが難しい。イラストカードと文字のなぞり書きなどしたが、文字としての機能の理解は困難であった。	・なぞり書きを中心にA4版に数文字程度の大きさで練習する。

4) 個別指導版 (自立活動)

様式3-2②

指導の記録 (自立活動) 【 1学期 】

○学部 ○年 ○組	氏名	△△△△	担任	□□□□, ▼▼▼▼▼, ●●●●
-----------	----	------	----	-------------------

指導目標	学習の様子と評価	今後の課題と手だて
・心理的な負担を上手に逃がすための手段を身に付ける	・授業中は離席などいけないことがわかっているのに、席について授業に参加するように促した。授業の活動に応じて独り言を話すことも多いが、席について授業に参加することができた。休憩時間にDVDを見たり、音楽に合わせてダンスしたりするときにトイレに行こうとする様子が見られた。休憩時間なのでそれは許可するようにしていた。	・身体を動かす習慣を身に付け気持ちの発散を図る指導が必要かと思われる。 ・本人の言葉での発信を共感的に受け止めつつも、リラックスできる状況、小さなストレスに耐性を付ける状況など興味・関心に応じた状況を使い分け、落ち着いた生活ができることを目指して指導する。 ・引き渡し訓練など家族が迎えにくる場面で自分の家族が来ないと落ち着かなくなる時があった。見通しが不明中の出来事だったので、そのような場面ではできるだけ早めに予告をし、混乱なく施設に引き継げるようにしていきたい。

IV 個別の指導計画の作成の日程

月	学級担任の仕事内容	教務部の仕事内容
4月	○児童生徒の実態の概要（個別の教育支援計画A）を作成 ※家庭訪問時に保護者と内容を確認 ○学部のHDDから昨年度の個別の指導計画の電子データをサーバーの個人フォルダに移動する。	○作成日程の提示 ○作成説明会の実施 ○家庭訪問計画の提示 ○電子データ移動の声掛け
5月	○自立活動の課題設定シートの確認と過不足の訂正（小2, 3, 5, 6年 中2, 3年 高2, 3年） ○昨年度のものをベースに担任間で今年度の計画を検討 ○個別の指導計画の作成と実践（集団版, 個別指導版）	○個別面談計画の提示 ○課題設定シート作成のグルーピング提示
6月	○自立活動課題設定シートの作成（小1, 4 中1 高1 5日間の設定） 設定日以外でも任意に持つことも可 ※個別面談（昨年度の個別の指導計画を提示） 今年度との変更点を確認し、参考になる事項の聴取	○個別の指導計画検討日の日程提示
7月	○個別の指導計画検討日（3日間） 設定日以外でも提出日までに任意にもつことも可 ○個別の指導計画の提出（学部主事まで） 学部主事→（地域支援Co, 校内支援チーフ, 研究主任は学部を分担して自立活動の部分のみ回覧）→教務→教頭	○諸表簿の内容確認と作成日程の提示 ○通信票作成日程の提示
8月	○個別の指導計画の電子データはサーバーの個人フォルダに保存 ○指導の記録の作成 指導の結果に応じて個別の指導計画の修正	○電子データ保管の声掛け
9月	※通信票の作成 ○指導の記録の提出（学部主事）	
10月	○2学期の実践	○指導の記録の助言 ○㊦3年生 個別面談の計画提示
11月 12月	※高等部3年 進路面談の実施	○㊦㊧㊨個別面談の計画提示 ○指導記録等提出物の確認と作成日程の提示 ○通信票作成日程の提示
1月	○指導の記録の作成	
2月	※個別面談（今年度の個別の指導計画を提示） 1年間の指導の結果を説明し、今後の課題を確認 ※通信票の作成	○通信票下書きの助言 ○通信票修正の確認
3月	○指導の記録の提出（学部主事） 修正後、個人ファイルに振り分けて引き継ぐ 計画と記録の電子データはサーバーの個人フォルダから学部のHDDに移動	○指導の記録の助言 ○引き継ぎ書類の確認 →個人ファイルに振り分け、学部のHDDへの電子データの保管

※個別面談

6月：個別の指導計画に関しては昨年度のものを提示し、口頭で作成状況と今年度の変更点を確認し、共通理解を図ります。また参考になる事項の聴取を行います。

2月：今年度のものを提示し、1年間の指導の経過や結果を口頭で保護者に報告します。

※個別の指導計画作成会議

学級内でT Tが集まり、個別の指導計画を読み合わせて検討する会議です。客観性と専門性を確保するための会議になります。教務から3日間日程が割り当てられますので、それらを軸に日程を調整してください。